

2024年10月28日

2024年度前期・学生による授業認識アンケート：結果報告

全学FD委員会

1. 目的

履修学生の授業に対する認識を調査することで、授業の内容や方法の改善に役立てることを目的として実施した。

2. 実施の対象

- (1) シラバスに記載されている開講科目（大学院の科目を除く）。但し、受講者が5名未満の科目、オムニバス科目、専門演習科目（ゼミ）については対象外とした。
- (2) 対象科目は教員（専任・非常勤を問わず）1名につき1科目を対象とし、原則として履修者の多い科目を対象とした。
- (3) 実施対象科目を全学FD委員会にて選定し、各学部学科にて精査したうえ決定とした。

3. アンケート項目

2024年度前期の授業に関する学生の授業認識アンケートは以下の項目の通りであった。

【シラバス】

Q1a あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか？

- 2) はい（おおよそ）知っています → Q1b に
- 1) いいえ（あまりよく）知りません → Q1b はとぼして Q2 に

Q1b この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。

- 5) 強くそう思う 4) どちらかと言えばそう思う 3) どちらとも言えない
- 2) どちらかと言えばそう思わない 1) まったくそう思わない

【授業の難易度】

Q2 自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。

- 5) とても難しかった 4) やや難しかった 3) 適切だった
- 2) やや易しかった 1) とても易しかった

【質問対応】

Q3 あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問をしたことがありますか。

- 2) はい、あります → Q4 に

1) いいえ、したことがありません → Q4 はとばして Q5 に

【フィードバック】

Q4 質問に対する教員の対応は適当だったと思いますか。

- 5) 強くそう思う 4) どちらかと言えばそう思う 3) どちらとも言えない
2) どちらかと言えばそう思わない 1) まったくそう思わない

【学生の意欲／熱意】

Q5 あなたはこの授業に対して意欲／熱意を持って取り組んだと思いますか。

- 5) 強くそう思う 4) どちらかと言えばそう思う 3) どちらとも言えない
2) どちらかと言えばそう思わない 1) まったくそう思わない

【教員の意欲／熱意】

Q6 教員は熱意を持ってこの授業を行ったと思いますか。

- 5) 強くそう思う 4) どちらかと言えばそう思う 3) どちらとも言えない
2) どちらかと言えばそう思わない 1) まったくそう思わない

【成長実感】

Q7 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉えかたが深くなった」
あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。

- 5) 強くそう思う 4) どちらかと言えばそう思う 3) どちらとも言えない
2) どちらかと言えばそう思わない 1) まったくそう思わない

【総合満足】

Q8 すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。「大いに満足した」を
10、「まったく満足できなかった」を1として、10段階で最も近いと思われるものを選
んでください。

- 10) 10 9) 9 8) 8 . . . 3) 3 2) 2 1) 1

【自由記述】

Q9a 授業について良かった点があれば具体的に書いてください。(授業担当教員が直接読み
ます)

Q9b 授業について困った点があれば具体的に書いてください。(授業担当教員が直接読みま
す)。

4. 結果

4.1 対象科目数と対象人数

対象科目数は 829 科目、対象延べ学生数（各対象科目内の履修者数の合計）は 10,336 人、実際に回答した延べ学生数は 17,418 人であった。2023 年度に重回帰分析からクロス集計へと分析方法を変更しており、今年度は前年度と結果を比較し傾向や改善点を確認することができた。2023 年度と同じく、各設問の相関関係を示し、全学的な結果について分析を行った。

ただし、全学共通科目（90 科目）を教員所属別に集計すると、学科によっては該当する教員が 1 人となり個人が特定されることから、今回は教員所属別の分析は全学のみとした。全学共通科目のみを対象とした学生所属別の集計は、昨年度同様に実施した。

今回の分析では平均値とその標準偏差を用いて算出した「変動係数(変異係数、あるいは変化係数ともいう)」に基づいて、アンケートの各項目における学科別の「格差」の有無について検証を試みた。変動係数は複数の変数間の相対的な格差を示す指標として用いられる。本アンケートでは複数の学科間の相対的な格差を表す。その値が高い程、相対的なバラツキが大きいことを示し、良い傾向とは言えない。なお、数値は%で表している。

変動係数はローデータに基づいて算出しているため、各表の平均と標準偏差を用いて計算する値と異なる場合があるが、学科間の相対的な格差分析に問題は生じない。

4.2 のべ回答者数と回答率

各質問項目の回答分布(学科/部局別)にある回答者数（Q1b は 14,964 人、Q2 は 17,432 人、Q4 は 6,559 人、Q5 は 17,429 人、Q6 は 17,459 人、Q7 は 17,461 人、Q8 は 17,418 人）は、設問によって異なるが、全学平均の回答者数・回答率は、15,769 人、32.89%（前年度：前期 22.69%、後期 31.62%）であった。

学生たちの回答科目数の多さから生じる負担、教員のコメント対応の負担等を考慮し、回答率をあげることを目的として、2024 年度においても担当科目のなかから最も履修者数の多い 1 科目を対象としてアンケートを実施した。1 科目であっても、確実にアンケートを実施し、学生の回答から教員自身が授業方法について見直し、課題を認識し、改善に向けて取り組んでいくことが重要だと考えたからである。その結果、2023 年度の前期より 10.2%、後期より 1.27%の上昇がみられた。

僅かでも回答率が上昇している理由としては、2023 年度前期の回答率の低さを受けて、授業中（9 時～18 時）に学生の回答が集中していることをグラフによって可視化したことで、教員が授業中の回答を促してくれるようになったからだと思われる。

その一方で、授業中にスマートフォンを取り出して回答している（ように見える）にもかかわらず、回答率が思ったほどには伸びないという声もやはり聞かれた。スマートフォンを使用したアンケートならではの課題が残っている。

もう一つの課題は、大人数の履修者を抱える科目の回答率がやはり芳しくないことであ

る。大人数ゆえの難しさはあると思われるが、全体の回答率にも影響することから、学生への授業中の回答を一層促してほしい。

すべての学科部局における回答率の上昇率(=2024 年度前期-2023 年度後期)は、2023 年度後期の値のように大幅に増加していないものの、全般的に上昇している。学科別の上昇率は以下の通りである。

上昇率の高い順に、社会学科 6.5% (24 年度前期 47.20%、23 年度後期 40.70%)、国際文化学科 4.47% (同前期 27.49%、同後期 23.02%)、政治学科 4.41% (同前期 38.10%、同後期 33.69%)、歴史文化学科 4.05% (同前期 30.22%、同後期 26.17%)、現代経済学科 4.00% (同前期 22.54%、同後期 18.54%)、法律学科 3.89% (同前期 29.07%、同後期 25.18%)、教職課程センター 3.83% (同前期 38.45%、同後期 34.62%)、スポーツ科学科 3.75% (同前期 32.98%、同後期 29.23%)、経営学科 3.33% (同前期 26.43%、同後期 23.10%)、日本語学科 2.89% (同前期 34.63%、同後期 31.74%)、英語学科 2.51% (同前期 38.04%、同後期 35.53%)、国際交流センター 2.46% (同前期 44.81%、同後期 42.35%)、教育学科 2.28% (同前期 26.36%、同後期 24.08%)、健康科学科 1.60% (同前期 47.44%、同後期 45.84%)、英米文学科 1.25% (同前期 38.40%、同後期 37.15%)、中国文学科 1.24% (同前期 30.18%、同後期 28.94%)、日本文学科 0.02% (同前期 38.29%、同後期 38.27%) となっている。

一方、上昇率の値が減少している学科は、看護学科-12.93% (同前期 57.28%、同後期 70.21%)、社会経済学科-8.72% (同前期 17.13%、同後期 25.85%)、国際関係学科-3.70% (同前期 33.84%、同後期 37.54%)、中国語学科-2.54% (同前期 42.50%、同後期 45.04%)、書道学科-0.11% (同前期 39.74%、同後期 39.85%) であった。

学年別では、学年が上がるごとに回答率は下がる傾向にある。

本アンケートは、授業に対する学生の認識を問うだけではなく、その結果に対して、教員からのコメント入力も必須となっている。授業改善のためには、学生からの指摘あるいは好評であった部分も含め、無視するわけにはいかない。学生からのアンケート回答率は徐々に上昇し、教員側のコメント入力状況も僅かに上昇したとはいえ、決して良いとは言えない(2024 年度前期の全学平均 52.7%)。教員からの反応がないことで、学生は次回アンケートへの回答意欲を低下させかねない。教員のコメント入力率を上げることも、引き続き大きな課題である。

2024 年度前期の専任教員の入力率は 64.4%、非常勤は 45.6% であった(2023 年度後期：専任 61.5%、非常勤 45.0%)。一学部のなかでも学科によってはコメント入力率に大きな差があることから、学科においても入力を促すことが必要だと思われる。

ちなみに、2024 年度前期の各学科のコメント入力状況は、入力率の高い順に以下の通りである。法学部 62.5% (法律 58.1%、政治 69.0%)、国際関係学部 62.3% (国際関係 75.0%、国際文化 48.0%)、経営学部 58.3%、社会学部 56.3%、経済学部 52.8% (社会経済 56.5%、

現代経済 50.0%)、文学部 51.1% (日本文学 75.0%、中国文学 80.0%、英米文 37.7%、教育 46.7%、書道 47.4%、歴史文化 46.9%)、スポーツ・健康科学部 50.5% (スポーツ科学 47.9%、健康科学 39.1%、看護 68.2%)、外国語学部 44.8% (中国語 42.0%、英語 44.1%、日本語 54.5%)、部局別では、教職課程センター51.9%、国際交流センター50.0%であった。

学科/部局別 (左) および学年別 (右) 回答率

学科 / 部局	回答数	未回答数	合計	回答率
日本文学科	829	1,336	2,165	38.29%
中国文学科	293	678	971	30.18%
英米文学科	730	1,171	1,901	38.40%
教育学科	1,188	3,319	4,507	26.36%
書道学科	300	455	755	39.74%
歴史文化学科	504	1,164	1,668	30.22%
社会経済学科	544	2,631	3,175	17.13%
現代経済学科	704	2,419	3,123	22.54%
中国語学科	584	790	1,374	42.50%
英語学科	1,595	2,598	4,193	38.04%
日本語学科	277	523	800	34.63%
法律学科	1,456	3,553	5,009	29.07%
政治学科	976	1,586	2,562	38.10%
国際関係学科	581	1,136	1,717	33.84%
国際文化学科	417	1,100	1,517	27.49%
経営学科	1,653	4,601	6,254	26.43%
スポーツ科学科	1,192	2,422	3,614	32.98%
健康科学科	732	811	1,543	47.44%
看護学科	527	393	920	57.28%
社会学科	1,750	1,958	3,708	47.20%
教職課程センター	491	786	1,277	38.45%
国際交流センター	95	117	212	44.81%
全学	17,418	35,547	52,965	32.89%

学年	回答数	未回答数	合計	回答率
1	8,463	9,075	17,538	48.26%
2	5,668	11,417	17,085	33.18%
3	2,423	10,117	12,540	19.32%
4	830	4,873	5,703	14.55%

4.3.1 【Q1a】 あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか。 [シラバス既知]

全学では2「知っている」と回答したのは80.4% (23年度後期77.9%)であった。2023年度後期よりは増加(2.5%)しているが、19.6%の回答学生がシラバスを承知していない。「知っている」と回答した比率が最も高かったのは、87.7%の看護学科(23年度後期81.5%)であった。

学年別では学年が上がるにつれ、2「知っている」の比率が高くなる傾向にある。

Q 1a 「シラバス既知」の学科/部局別（左）および学年別（右）回答

（ 1「いいえ（あまりよく）知りません」/ 2「はい（おおよそ）知っています」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	16.5%	83.5%
中国文学科	15.9%	84.1%
英米文学科	19.5%	80.5%
教育学科	18.4%	81.6%
書道学科	17.9%	82.1%
歴史文化学科	16.6%	83.4%
社会経済学科	14.5%	85.5%
現代経済学科	19.9%	80.1%
中国語学科	22.8%	77.2%
英語学科	20.8%	79.2%
日本語学科	18.0%	82.0%
法律学科	20.9%	79.1%
政治学科	18.3%	81.7%
国際関係学科	12.9%	87.1%
国際文化学科	12.7%	87.3%
経営学科	19.3%	80.7%
スポーツ科学科	26.8%	73.2%
健康科学科	19.0%	81.0%
看護学科	12.3%	87.7%
社会学科	23.7%	76.3%
教職課程センター	25.0%	75.0%
国際交流センター	13.5%	86.5%
全学	19.6%	80.4%

学年	1	2
1	21.3%	78.7%
2	19.1%	80.9%
3	18.0%	82.0%
4	11.5%	88.5%

4.3.2 【Q1b】 この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。[シラバス通り]

この設問は Q1a で 2「はい（おおよそ）知っています」と回答した学生のみが回答した。全学の平均は 4.37（23 年度後期 4.37）で標準偏差は 0.71（23 年度後期 0.72）であった。この結果は 2023 年度後期と同じ傾向である。

学科で最も平均値が高かったのは書道学科で 4.58（23 年度後期は日本語学科 4.55）であった。標準偏差の 0.59 を加味すると、その値は 3.99 から 5.17 の幅に位置する。

学科部局別、学年別、全学の回答分布状況は、5「強くそう思う」、4「どちらかと言えばそう思う」の合計は全学 90.72%（23 年度後期 90.01%）であった。学生は「シラバスの記述通りに授業が行われた」と認識しており、概ね満足していると言えるだろう。

尚、全学の合計はローデータに基づいて計算しているため、表では 100 分の 1 の誤差が生じているが、全体には影響を及ぼさない。

変動係数からみると、学科間の格差を確認できる。平均 16.28%に対し、係数が最も大き

かったのは法律学科 17.50%、次いで中国文学科 17.16%、経営学科 17.11%が 17%を超えている。部局で 17%を超えたのは国際交流センター17.21%であった。

Q 1b「シラバス通り」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	719	4.45	0.62	14.03%
中国文学科	255	4.36	0.75	17.16%
英米文学科	626	4.35	0.74	16.91%
教育学科	1,021	4.35	0.71	16.41%
書道学科	263	4.58	0.59	12.91%
歴史文化学科	437	4.33	0.70	16.25%
社会経済学科	472	4.39	0.70	15.91%
現代経済学科	590	4.27	0.71	16.53%
中国語学科	496	4.35	0.72	16.48%
英語学科	1,382	4.40	0.73	16.52%
日本語学科	236	4.50	0.67	14.81%
法律学科	1,217	4.31	0.75	17.50%
政治学科	862	4.33	0.71	16.29%
国際関係学科	536	4.41	0.73	16.50%
国際文化学科	381	4.44	0.70	15.81%
経営学科	1,419	4.29	0.73	17.11%
スポーツ科学科	975	4.40	0.73	16.69%
健康科学科	636	4.39	0.68	15.57%
看護学科	485	4.50	0.61	13.59%
社会学科	1,463	4.29	0.69	16.16%
教職課程センター	404	4.45	0.64	14.49%
国際交流センター	89	4.44	0.76	17.21%
全学	14,964	4.37	0.71	16.28%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	7,174	4.34	0.72	16.65%
2	4,918	4.37	0.70	16.14%
3	2,090	4.40	0.69	15.57%
4	749	4.47	0.69	15.53%

Q 1b 「シラバス通り」に対する学科/部局別回答分布

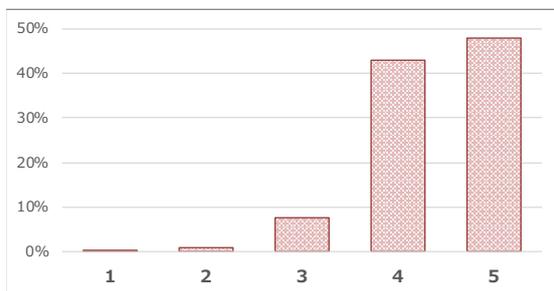
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.14%	0.28%	5.42%	42.98%	51.18%
中国文学科	0.78%	1.57%	7.06%	41.57%	49.02%
英米文学科	0.64%	1.28%	7.99%	42.17%	47.92%
教育学科	0.78%	0.49%	7.93%	44.07%	46.72%
書道学科	0.00%	0.00%	5.32%	31.18%	63.50%
歴史文化学科	0.46%	1.60%	6.18%	48.28%	43.48%
社会経済学科	0.85%	1.06%	4.24%	45.76%	48.09%
現代経済学科	0.51%	1.02%	8.98%	50.17%	39.32%
中国語学科	0.60%	0.40%	9.48%	41.94%	47.58%
英語学科	0.29%	1.74%	7.45%	39.15%	51.37%
日本語学科	0.00%	1.69%	4.66%	35.17%	58.47%
法律学科	0.74%	1.81%	7.89%	44.86%	44.70%
政治学科	0.58%	0.58%	8.58%	45.71%	44.55%
国際関係学科	0.37%	1.68%	7.09%	38.43%	52.43%
国際文化学科	0.26%	0.79%	8.40%	35.70%	54.86%
経営学科	0.78%	0.92%	9.23%	46.65%	42.42%
スポーツ科学科	0.21%	1.13%	10.36%	35.18%	53.13%
健康科学科	0.16%	0.94%	7.70%	41.67%	49.53%
看護学科	0.21%	0.00%	4.95%	39.38%	55.46%
社会学科	0.41%	0.82%	8.82%	49.28%	40.67%
教職課程センター	0.00%	0.99%	5.45%	41.34%	52.23%
国際交流センター	1.12%	1.12%	6.74%	34.83%	56.18%
全学	0.47%	1.02%	7.79%	42.96%	47.77%

Q 1b 「シラバス通り」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.57%	1.07%	8.22%	43.78%	46.35%
2	0.33%	1.04%	8.15%	42.70%	47.78%
3	0.29%	0.91%	7.03%	41.82%	49.95%
4	0.93%	0.80%	3.60%	39.92%	54.74%

Q 1b 「シラバス通り」に対する全学の回答分布

(1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」)



回答	回答者数	割合
1	70	0.47%
2	153	1.02%
3	1165	7.79%
4	6428	42.96%
5	7148	47.77%
合計	14964	

4.3.3 【Q2】 自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。[難易度適切]

この設問の回答は、5「とても難しかった」～1「とても易しかった」の5段階であり、数値が高いほど良いわけではない。全学の平均は3.55(23年度後期3.54)、標準偏差は0.78(23年度後期0.79)であった。どの学科も3「適切だった」から4「やや難しかった」の間に平均があることから、難易度は概ね適切と言えるだろう。学科では現代経済学科が3.88(標準偏差0.79)と最も高く、授業内容をやや難しいと受け止めている傾向にある。

学科部局別と全学の回答分布状況を見ると、全学では3と4の合計が83.92%であり、全体としては概ね適切ではあるものの、やや難しいと受け止めているようだ。なお、3「適切だった」が5割を超える高い数値を示したのは、高い順にスポーツ科学科63.26%、中国文学科59.73%、教職課程センター59.27%、書道学科57.67%、国際文化学科55.29%、日本語学科55.04%、歴史文化学科54.67%、日本文学科53.91%、看護学科51.70%、社会学科50.06%であった。授業を易しいと受け止めている1と2の回答の合計値が比較的高かったのは、スポーツ科学科8.03%、日本語学科6.12%、中国文学科5.12%であった。この3学科は、5の回答も他学科に比べると少なかった。

学年別の平均値は、1年生3.55、2年生3.57、3年生3.56と、ほぼ同じ水準であるが、4年生は3.45と僅かに低くなり、他学年よりは授業を難しいとは捉えていない。

全学の学年別回答分布を2023年度後期と比較すると、1年生47.53%(23年度後期47.38%)、2年生46.98%(23年度後期46.18%)は、3「適切だった」が増加している。一方で、3年生49.24%(23年度後期52.82%)と4年生57.11%(23年度後期58.03%)は減少している。これに連動して、5「とても難しかった」は3年生13.06%(23年度後期8.76%)、4年生10.72%(23年度後期8.58%)と、3年生で4.31%、4年生2.14%の増加がみられた。学年が進むほど、授業を難しいと捉えていることが示された。

変動係数をみると、全学平均22.08%より高い学科が9学科あり、学科間の格差を確認できる。なかでも、スポーツ科学科24.68%と中国語学科23.50%は高い値を示し、今後、改善に向けた検討や工夫が必要であろう。

Q2「難易度適切」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	831	3.45	0.73	21.07%
中国文学科	293	3.38	0.75	22.07%
英米文学科	728	3.63	0.81	22.34%
教育学科	1,188	3.52	0.77	21.96%
書道学科	300	3.46	0.73	21.16%
歴史文化学科	503	3.49	0.70	20.13%
社会経済学科	543	3.56	0.79	22.09%
現代経済学科	705	3.88	0.79	20.39%
中国語学科	586	3.70	0.87	23.50%
英語学科	1,595	3.57	0.77	21.47%
日本語学科	278	3.39	0.77	22.80%
法律学科	1,454	3.63	0.80	22.09%
政治学科	977	3.65	0.81	22.13%
国際関係学科	580	3.54	0.73	20.68%
国際文化学科	416	3.44	0.72	20.88%
経営学科	1,654	3.66	0.78	21.35%
スポーツ科学科	1,195	3.24	0.80	24.68%
健康科学科	733	3.68	0.81	22.14%
看護学科	528	3.48	0.79	22.58%
社会学科	1,758	3.52	0.73	20.82%
教職課程センター	491	3.39	0.67	19.69%
国際交流センター	96	3.67	0.75	20.33%
全学	17,432	3.55	0.78	22.08%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	8,462	3.55	0.80	22.66%
2	5,679	3.57	0.76	21.24%
3	2,427	3.56	0.78	21.89%
4	830	3.45	0.77	22.29%

Q 2「難易度適切」に対する学科/部局別回答分布

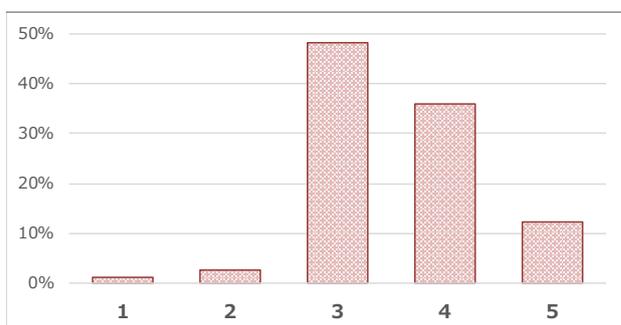
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	1.20%	2.53%	53.91%	34.42%	7.94%
中国文学科	1.02%	4.10%	59.73%	26.28%	8.87%
英米文学科	0.96%	3.16%	42.86%	37.77%	15.25%
教育学科	1.35%	2.44%	49.83%	35.44%	10.94%
書道学科	0.67%	2.33%	57.67%	29.33%	10.00%
歴史文化学科	0.00%	2.98%	54.67%	33.20%	9.15%
社会経済学科	1.66%	2.39%	45.49%	39.23%	11.23%
現代経済学科	0.57%	1.28%	30.92%	44.40%	22.84%
中国語学科	2.39%	1.02%	39.93%	37.54%	19.11%
英語学科	1.19%	2.32%	46.21%	39.12%	11.16%
日本語学科	1.80%	4.32%	55.04%	30.58%	8.27%
法律学科	1.17%	2.27%	43.67%	38.17%	14.72%
政治学科	1.13%	2.56%	41.76%	39.20%	15.35%
国際関係学科	0.34%	2.93%	49.14%	37.07%	10.52%
国際文化学科	0.72%	3.37%	55.29%	32.69%	7.93%
経営学科	0.60%	2.54%	41.96%	39.90%	14.99%
スポーツ科学科	3.77%	4.27%	63.26%	21.42%	7.28%
健康科学科	0.68%	2.32%	43.38%	35.74%	17.87%
看護学科	1.52%	3.22%	51.70%	32.95%	10.61%
社会学科	0.63%	2.73%	50.06%	36.75%	9.84%
教職課程センター	1.02%	2.04%	59.27%	32.38%	5.30%
国際交流センター	0.00%	3.13%	40.63%	42.71%	13.54%
全学	1.18%	2.64%	48.03%	35.89%	12.25%

Q 2「難易度適切」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	1.42%	3.05%	47.53%	35.37%	12.63%
2	0.90%	2.27%	46.98%	38.23%	11.62%
3	0.91%	2.35%	49.24%	34.45%	13.06%
4	1.57%	1.81%	57.11%	28.80%	10.72%

Q2 「難易度適切」に対する全学の回答分布

(1「とても易しかった」/ 2「やや易しかった」/ 3「適切だった」/ 4「やや難しかった」/ 5「とても難しかった」)



回答	回答者数	割合
1	206	1.18%
2	461	2.64%
3	8373	48.03%
4	6256	35.89%
5	2136	12.25%
合計	17432	

4.3.4 【Q3】 あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問をしたことがありますか。

[質問対応]

全学で1「あります」と回答したのは17.9%(23年度後期15.7%)と低い比率になっているが、2023年度後期より少し改善がみられる結果となった。

2023年度後期において、2「いいえ、したことはありません」と回答したのは全学で84.3%、と高い比率を示していた。これに対して、2024年度前期の比率は全学で82.1%となり、前年度に比べて少し低下したが、依然として学生の授業における消極的な様子は変わらない。1については、全学の約6割の学科が20%未満であった。

1と回答した学生を学年別の比率でも、全学で1年生18.8%、2年生15.8%、3年生18.4%、4年生19.6%、全学年で20%以下を示し、低い水準となった。

Q3「質問対応」の学科/部局別（左）および学年別（右）回答

（1「はい、あります」/ 2「いいえ、したことはありません」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	19.4%	80.6%
中国文学科	20.5%	79.5%
英米文学科	26.5%	73.5%
教育学科	16.1%	83.9%
書道学科	27.8%	72.2%
歴史文化学科	14.1%	85.9%
社会経済学科	14.8%	85.2%
現代経済学科	16.5%	83.5%
中国語学科	28.1%	71.9%
英語学科	29.8%	70.2%
日本語学科	31.8%	68.2%
法律学科	10.7%	89.3%
政治学科	17.2%	82.8%
国際関係学科	19.3%	80.7%
国際文化学科	21.2%	78.8%
経営学科	10.3%	89.7%
スポーツ科学科	16.8%	83.2%
健康科学科	20.6%	79.4%
看護学科	16.0%	84.0%
社会学科	10.9%	89.1%
教職課程センター	13.9%	86.1%
国際交流センター	36.2%	63.8%
全学	17.9%	82.1%

学年	1	2
1	18.8%	81.2%
2	15.8%	84.2%
3	18.4%	81.6%
4	19.6%	80.4%

4.3.5 【Q4】 質問に対する教員の対応は適切だったと思いますか。[フィードバック]

この設問は、Q3で「授業に関連して質問したことがある」と回答した学生のみが回答した。全学の平均は4.15（23年度後期は3.73）、標準偏差は0.96（23年度後期は1.31）であった。4「どちらかと言えばそう思う」と5「強くそう思う」の間にあり、対応は迅速であったと認識されていると言える。

学科部局別回答分布をみても、4と5の合計が72.77%と7割を超えており、2023年度後期の4、5の合計60.27%と比較すると、大きく増加している。

2023年度後期は、1「まったくそう思わない」9.76%と2「どちらかといえばそう思わない」7.23%の合計が16.99%を示していたが、2024年度前期の1と2の合計は3.51%で5分の1に近い値に減少した。この結果により、質問に対する教員対応が前年度後期に比べて大幅に改善したと言える。

学科では2023年度後期と同様、書道学科(平均4.59、標準偏差0.71)が最も高かった(23

年度後期：平均 4.36、標準偏差 1.15)。部局では国際交流センターが平均 4.30、標準偏差 0.96 であった(23 年度後期：平均 4.17、標準偏差 1.23)。

学年別では、全学の平均は 1 年生 4.13(標準偏差 0.98)から、2 年生 4.14(標準偏差 0.93)、3 年生 4.17(標準偏差 0.98)、4 年生 4.23 (標準偏差 0.95) を示し、増加している。4 年生の数値は他学年に比べて相対的に高い。

変動係数は平均が 23.22%、12 学科が 23%を超え、相対的に高い数値を示し、良い傾向とは言えない。最も高いのは経営学科で 26.56%であり、最も低い書道学科 15.55%と、11.01%の差が生じている。5 段階および学科部局別の全学平均をみると改善されているという結果になってはいるが、学科間では大きな格差が生じていることが確認された。

Q4「フィードバック」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	279	4.26	0.90	21.11%
中国文学科	117	4.22	1.01	24.01%
英米文学科	333	4.10	1.02	24.79%
教育学科	412	4.09	1.02	24.90%
書道学科	128	4.59	0.71	15.55%
歴史文化学科	152	4.11	0.89	21.53%
社会経済学科	192	4.10	0.94	22.79%
現代経済学科	251	3.97	0.94	23.61%
中国語学科	288	4.16	0.88	21.22%
英語学科	761	4.34	0.90	20.81%
日本語学科	133	4.38	0.92	21.07%
法律学科	414	3.99	0.95	23.84%
政治学科	355	4.20	0.98	23.40%
国際関係学科	229	4.17	0.97	23.31%
国際文化学科	179	4.35	0.85	19.65%
経営学科	541	3.83	1.02	26.56%
スポーツ科学科	497	4.20	0.98	23.25%
健康科学科	308	4.11	0.97	23.55%
看護学科	210	4.23	1.01	23.93%
社会学科	569	4.03	0.95	23.56%
教職課程センター	151	4.25	0.86	20.28%
国際交流センター	60	4.30	0.86	20.05%
全学	6,559	4.15	0.96	23.22%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	3,296	4.13	0.98	23.66%
2	2,036	4.14	0.93	22.51%
3	862	4.17	0.98	23.55%
4	340	4.23	0.95	22.43%

Q 4「フィードバック」に対する学科/部局別回答分布

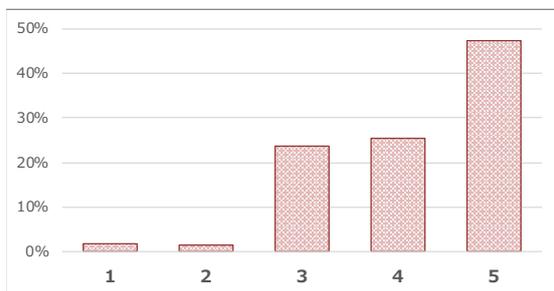
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	1.08%	1.08%	21.15%	24.37%	52.33%
中国文学科	2.56%	2.56%	19.66%	20.51%	54.70%
英米文学科	3.00%	2.10%	22.82%	26.13%	45.95%
教育学科	2.67%	2.43%	24.51%	24.27%	46.12%
書道学科	0.00%	0.78%	10.94%	17.19%	71.09%
歴史文化学科	0.00%	3.29%	24.34%	30.26%	42.11%
社会経済学科	1.56%	0.52%	28.13%	25.52%	44.27%
現代経済学科	2.39%	1.59%	26.29%	35.86%	33.86%
中国語学科	0.35%	1.74%	25.00%	27.78%	45.14%
英語学科	2.10%	0.79%	14.59%	26.54%	55.98%
日本語学科	2.26%	0.75%	15.04%	20.30%	61.65%
法律学科	1.21%	3.14%	28.99%	28.50%	38.16%
政治学科	2.54%	1.69%	20.00%	24.79%	50.99%
国際関係学科	1.75%	1.31%	25.76%	20.52%	50.66%
国際文化学科	0.56%	0.56%	20.11%	21.23%	57.54%
経営学科	3.14%	2.22%	36.04%	25.32%	33.27%
スポーツ科学科	2.21%	0.80%	23.94%	20.52%	52.52%
健康科学科	1.95%	2.60%	22.40%	28.25%	44.81%
看護学科	3.33%	0.95%	19.52%	21.43%	54.76%
社会学科	1.93%	0.70%	29.88%	27.24%	40.25%
教職課程センター	0.66%	0.66%	21.85%	27.15%	49.67%
国際交流センター	0.00%	3.33%	16.67%	26.67%	53.33%
全学	1.95%	1.56%	23.72%	25.45%	47.32%

Q 4「フィードバック」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	2.34%	1.52%	23.48%	25.76%	46.91%
2	1.28%	1.52%	25.15%	25.74%	46.32%
3	2.32%	1.51%	22.74%	24.01%	49.42%
4	1.47%	2.06%	21.18%	22.94%	52.35%

Q4 「フィードバック」に対する全学の回答分布

(1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」)



回答	回答者数	割合
1	128	1.95%
2	102	1.56%
3	1556	23.72%
4	1669	25.45%
5	3104	47.32%
合計	6559	

4.3.6 【Q5】 あなたはこの授業に対して意欲／熱意を持って取り組んだと思いますか。

[自分意欲]

この設問に対する全学の平均は 4.11 (23 年度後期：4.07)、標準偏差 0.79 (23 年度後期：0.81) であり、2023 年度後期に比べてやや高い数値であった。学科別では 2023 年度後期と同様、書道学科 4.57 (標準偏差 0.62) が最も高かった (23 年度後期：平均値 4.41、標準偏差 0.68)。学科による平均値の幅(最大値 4.57－最小値 3.87)は 0.7 で小さくはない。部局の平均値では、教職課程センターが 4.29(標準偏差 0.68)と高かった (23 年度後期：平均 4.16、標準偏差 0.76)。

学科部局別の回答分布をみても、4「どちらかと言えばそう思う」49.32%、5「強くそう思う」32.77%と、4と5の合計82.09%と8割を超えており、学生は意欲をもって授業に取り組んだと言えるだろう。

学年別の平均では、1年生から4年生は4.0以上であり、4年生4.13(標準偏差0.77)が最も高い数値を表している。

変動係数から授業参加への意欲や熱意に対する学生自身の認識をみると、平均19.26%に対し、書道学科13.61%、スポーツ科学科15.97%と低い値を示す。一方で、経営学科21.54%、現代経済学科21.45%、社会学科20.46%、教育学科20.44%、政治学科20.29%、法律学科19.77%、部局では国際交流センター22.43%と6学科1部局が平均を超えている。最大で7.93%の格差を生じている。

Q5「自分意欲」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	831	4.12	0.73	17.77%
中国文学科	294	4.23	0.73	17.21%
英米文学科	728	4.19	0.74	17.64%
教育学科	1,188	4.11	0.84	20.44%
書道学科	299	4.57	0.62	13.61%
歴史文化学科	504	4.10	0.73	17.74%
社会経済学科	544	4.06	0.76	18.68%
現代経済学科	704	3.87	0.83	21.45%
中国語学科	585	4.15	0.79	19.04%
英語学科	1,595	4.21	0.73	17.43%
日本語学科	277	4.17	0.79	18.97%
法律学科	1,453	3.98	0.79	19.77%
政治学科	975	4.04	0.82	20.29%
国際関係学科	582	4.14	0.77	18.67%
国際文化学科	415	4.19	0.73	17.36%
経営学科	1,651	3.94	0.85	21.54%
スポーツ科学科	1,197	4.37	0.70	15.97%
健康科学科	732	4.09	0.78	19.17%
看護学科	527	4.23	0.80	18.98%
社会学科	1,759	3.99	0.82	20.46%
教職課程センター	493	4.29	0.68	15.89%
国際交流センター	96	4.11	0.92	22.43%
全学	17,429	4.11	0.79	19.26%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	8,473	4.11	0.80	19.47%
2	5,675	4.10	0.78	19.13%
3	2,418	4.12	0.79	19.13%
4	829	4.13	0.77	18.64%

Q 5「自分意欲」に対する学科/部局別回答分布

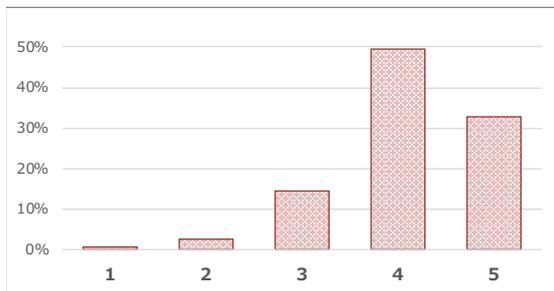
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.36%	1.68%	14.32%	52.95%	30.69%
中国文学科	0.34%	1.02%	12.59%	47.62%	38.44%
英米文学科	0.14%	2.06%	12.64%	49.04%	36.13%
教育学科	1.18%	2.53%	15.74%	45.20%	35.35%
書道学科	0.33%	0.67%	3.01%	34.11%	61.87%
歴史文化学科	0.20%	1.98%	14.88%	53.77%	29.17%
社会経済学科	0.55%	2.76%	14.34%	54.78%	27.57%
現代経済学科	0.85%	5.26%	20.88%	51.99%	21.02%
中国語学科	0.85%	1.71%	14.53%	47.18%	35.73%
英語学科	0.44%	1.69%	10.85%	50.03%	36.99%
日本語学科	0.36%	2.89%	13.36%	45.85%	37.55%
法律学科	0.69%	3.58%	17.27%	54.37%	24.09%
政治学科	0.92%	3.49%	15.79%	50.67%	29.13%
国際関係学科	0.34%	2.58%	14.09%	48.80%	34.19%
国際文化学科	0.00%	1.93%	13.01%	49.40%	35.66%
経営学科	1.03%	4.24%	20.35%	48.64%	25.74%
スポーツ科学科	0.42%	0.75%	7.94%	43.61%	47.28%
健康科学科	0.55%	2.87%	14.75%	50.68%	31.15%
看護学科	0.57%	2.85%	11.39%	43.26%	41.94%
社会学科	0.97%	3.47%	17.45%	51.34%	26.78%
教職課程センター	0.00%	1.42%	8.72%	49.70%	40.16%
国際交流センター	1.04%	6.25%	12.50%	40.63%	39.58%
全学	0.64%	2.69%	14.58%	49.32%	32.77%

Q 5「自分意欲」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.66%	2.90%	14.41%	48.67%	33.35%
2	0.58%	2.59%	15.12%	50.11%	31.59%
3	0.70%	2.36%	14.43%	48.97%	33.54%
4	0.60%	2.29%	13.51%	50.78%	32.81%

Q 5 「自分意欲」に対する全学の回答分布

(1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」)



回答	回答者数	割合
1	111	0.64%
2	469	2.69%
3	2541	14.58%
4	8596	49.32%
5	5712	32.77%
合計	17429	

4.3.7 【Q6】 教員は熱意を持ってこの授業を行ったと思いますか。[教員熱意]

この設問に対する全学の平均 4.51 と標準偏差 0.71 は、2023 年度後期の平均 4.49 と標準偏差 0.72 に比べてわずかに上昇しているが、ほぼ前年度の後期並みと言える。この平均値は、4「どちらかと言えばそう思う」と 5「強くそう思う」の中間点であり、学科部局別と全学の回答分布をみても、5 が 60.64%、4 が 31.36%であった。4 と 5 の合計が 92.00% という高い数値を示し、満足してよい結果であると言える。これはどの学科も同じ傾向にある。

学科別では書道学科の平均が 4.77(標準偏差 0.48)と最も高かった (23 年度後期も書道学科：平均 4.69、標準偏差 0.60)。部局では教職課程センターの平均が 4.70 (標準偏差 0.53) と高かった (23 年度後期：平均 4.49、標準偏差 0.72)。

学年別の平均では 4.5 以上の高い数値を示しており、4 年生の数値が最も高い(全学 4.58)。

変動係数からみると、学科間の格差は生じているものの、他の質問項目ほど大きい値ではない。とはいえ、全学平均 15.73%に対し、経営学科 19.06%、現代経済学科 18.26%、法律学科 17.66%、健康科学科 17.25%、社会学科 16.34%、社会経済学科 15.89%、看護学科 15.86%、部局では国際交流センターが 16.13%と平均を超えており、学科間の格差が確認された。

Q 6「教員熱意」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	832	4.57	0.60	13.08%
中国文学科	295	4.63	0.67	14.49%
英米文学科	730	4.58	0.63	13.86%
教育学科	1,192	4.51	0.69	15.33%
書道学科	300	4.77	0.48	10.11%
歴史文化学科	504	4.52	0.63	13.88%
社会経済学科	544	4.48	0.71	15.89%
現代経済学科	703	4.30	0.78	18.26%
中国語学科	585	4.49	0.69	15.42%
英語学科	1,599	4.56	0.66	14.57%
日本語学科	278	4.62	0.67	14.41%
法律学科	1,458	4.39	0.78	17.66%
政治学科	978	4.53	0.69	15.33%
国際関係学科	582	4.61	0.63	13.77%
国際文化学科	416	4.64	0.65	14.10%
経営学科	1,655	4.32	0.82	19.06%
スポーツ科学科	1,198	4.63	0.62	13.48%
健康科学科	733	4.47	0.77	17.25%
看護学科	529	4.49	0.71	15.86%
社会学科	1,758	4.47	0.73	16.34%
教職課程センター	494	4.70	0.53	11.35%
国際交流センター	96	4.55	0.73	16.13%
全学	17,459	4.51	0.71	15.73%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	8,483	4.50	0.72	16.10%
2	5,683	4.49	0.70	15.58%
3	2,427	4.55	0.68	15.01%
4	832	4.58	0.68	14.92%

Q 6「教員熱意」に対する学科/部局別回答分布

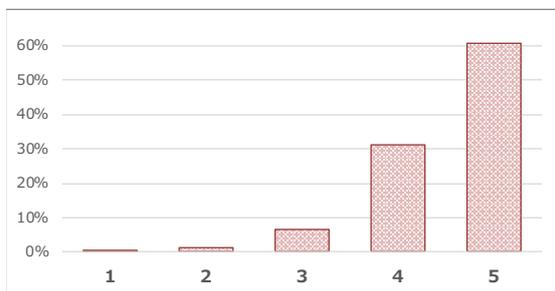
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.00%	0.00%	5.65%	31.49%	62.86%
中国文学科	1.02%	0.00%	4.75%	23.39%	70.85%
英米文学科	0.27%	0.41%	5.07%	29.59%	64.66%
教育学科	0.42%	0.76%	6.63%	31.80%	60.40%
書道学科	0.00%	0.33%	1.67%	19.00%	79.00%
歴史文化学科	0.20%	0.40%	4.76%	36.90%	57.74%
社会経済学科	0.55%	0.92%	6.80%	33.27%	58.46%
現代経済学科	1.00%	1.42%	10.10%	41.96%	45.52%
中国語学科	0.17%	0.68%	8.38%	31.79%	58.97%
英語学科	0.31%	0.63%	5.94%	29.33%	63.79%
日本語学科	0.72%	1.08%	2.88%	25.90%	69.42%
法律学科	0.69%	2.13%	7.68%	36.21%	53.29%
政治学科	0.92%	0.51%	4.60%	32.62%	61.35%
国際関係学科	0.17%	0.69%	5.15%	25.95%	68.04%
国際文化学科	0.24%	1.44%	4.09%	22.60%	71.63%
経営学科	0.91%	2.78%	9.24%	37.58%	49.49%
スポーツ科学科	0.33%	0.50%	4.26%	25.88%	69.03%
健康科学科	0.68%	2.05%	7.09%	29.47%	60.71%
看護学科	0.00%	1.70%	7.75%	30.43%	60.11%
社会学科	0.40%	1.42%	7.57%	31.97%	58.65%
教職課程センター	0.20%	0.20%	2.02%	24.09%	73.48%
国際交流センター	0.00%	2.08%	8.33%	21.88%	67.71%
全学	0.47%	1.13%	6.40%	31.36%	60.64%

Q 6「教員熱意」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.52%	1.25%	6.83%	30.97%	60.44%
2	0.46%	0.99%	6.30%	33.43%	58.82%
3	0.29%	1.15%	5.69%	29.46%	63.41%
4	0.60%	0.84%	5.05%	26.92%	66.59%

Q6 「教員熱意」に対する全学の回答分布

(1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」)



回答	回答者数	割合
1	82	0.47%
2	197	1.13%
3	1118	6.40%
4	5475	31.36%
5	10587	60.64%
合計	17459	

4.3.8 【Q7】 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉えかたが深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。[成長実感]

この設問に対する全学の平均は 4.31(標準偏差：0.78)であり、2023 年度後期(平均 4.29、標準偏差 0.79)とほぼ同じ数値となっている。全体としてはまずまずの結果と言えるだろう。学科別の平均は前年度と同様、書道学科が 4.67 (標準偏差 0.53) と最も高く(23 年度後期：平均 4.59、標準偏差 0.60)、部局では教職課程センターが平均 4.51(標準偏差 0.64)であった(23 年度後期：平均 4.32、標準偏差 0.83)。

学科部局別、および全学の回答分布をみると、4「どちらかと言えばそう思う」42.48%、5「強くそう思う」45.79%である。4 よりも 5 のほうが高くなっており、両方の合計が 88.27%と前年度後期(88.28%)とほぼ同じであった。ちなみに、4 よりも 5 の割合のほうが高かった学科は、高い順に書道学科 70.10%、スポーツ科学科 56.14%、国際文化学科 54.44%、看護学科 51.80%、国際関係学科 50.77%、英語学科 50.47%、中国文学科 49.49%、日本語学科 48.92%、健康科学科 48.77%、中国語学科 47.86%、日本文学科 47.72%、教育学科 45.76%であった。なかでも、書道学科は 7 割を超える高い数値を示しており、技術の習得が成長実感をもたらしていると考えられる。部局では、教職課程センターも国際交流センターも 5 の割合が高く、教職課程センター58.50%、国際交流センター51.04%であった。

学年別の回答分布を見ると、5「強くそう思う」の割合が最も高いのは 4 年生 51.92%であった。

成長実感を変動係数からみると、全学平均 18.02%、平均を超えていたのが 9 学科 1 部局であった。現代経済学科 21.44%、国際交流センター22.27%、経営学科 19.74%、中国語学科 19.38%、社会経済学科 18.88%、法律学科 18.79%、社会学科 18.71%、政治学科 18.52%、中国文学科 18.40%、教育学科 18.38%が平均を超えていた。書道学科は 11.34%とばらつきが少ないことが示された。

Q7「成長感覚」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	832	4.36	0.71	16.25%
中国文学科	295	4.34	0.80	18.40%
英米文学科	730	4.28	0.74	17.31%
教育学科	1,191	4.30	0.79	18.38%
書道学科	301	4.67	0.53	11.34%
歴史文化学科	505	4.29	0.75	17.47%
社会経済学科	545	4.26	0.80	18.88%
現代経済学科	705	4.06	0.87	21.44%
中国語学科	585	4.29	0.83	19.38%
英語学科	1,597	4.39	0.72	16.34%
日本語学科	278	4.36	0.73	16.74%
法律学科	1,457	4.23	0.79	18.79%
政治学科	978	4.26	0.79	18.52%
国際関係学科	581	4.38	0.73	16.75%
国際文化学科	417	4.43	0.73	16.55%
経営学科	1,657	4.18	0.83	19.74%
スポーツ科学科	1,197	4.45	0.73	16.41%
健康科学科	732	4.35	0.76	17.42%
看護学科	529	4.39	0.74	16.92%
社会学科	1,759	4.23	0.79	18.71%
教職課程センター	494	4.51	0.64	14.07%
国際交流センター	96	4.25	0.95	22.27%
全学	17,461	4.31	0.78	18.02%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	8,488	4.29	0.80	18.61%
2	5,681	4.30	0.76	17.61%
3	2,426	4.35	0.75	17.20%
4	832	4.41	0.75	17.07%

Q 7「成長感覚」に対する学科/部局別回答分布

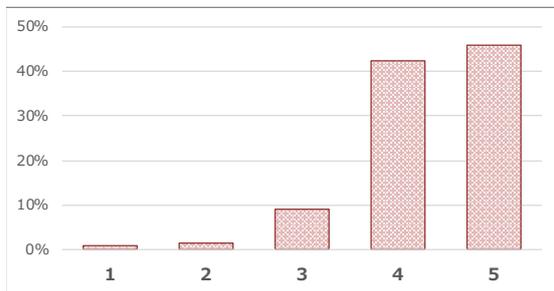
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.48%	0.48%	9.25%	42.07%	47.72%
中国文学科	1.36%	1.36%	8.47%	39.32%	49.49%
英米文学科	0.68%	1.23%	9.59%	46.71%	41.78%
教育学科	1.09%	1.68%	9.15%	42.32%	45.76%
書道学科	0.00%	0.00%	2.99%	26.91%	70.10%
歴史文化学科	0.59%	2.57%	6.53%	48.12%	42.18%
社会経済学科	2.20%	0.92%	6.79%	49.36%	40.73%
現代経済学科	2.13%	2.98%	13.48%	50.07%	31.35%
中国語学科	1.20%	1.37%	12.99%	36.58%	47.86%
英語学科	0.50%	1.00%	7.83%	40.20%	50.47%
日本語学科	0.36%	1.44%	8.63%	40.65%	48.92%
法律学科	1.10%	2.06%	10.02%	46.88%	39.95%
政治学科	1.12%	1.84%	9.20%	45.40%	42.43%
国際関係学科	0.34%	1.20%	9.47%	38.21%	50.77%
国際文化学科	0.72%	0.96%	7.43%	36.45%	54.44%
経営学科	1.27%	2.35%	11.95%	45.56%	38.87%
スポーツ科学科	0.84%	0.84%	6.77%	35.42%	56.14%
健康科学科	0.55%	2.05%	7.92%	40.71%	48.77%
看護学科	0.38%	1.89%	7.75%	38.19%	51.80%
社会学科	0.80%	2.44%	10.40%	46.05%	40.31%
教職課程センター	0.00%	0.61%	5.87%	35.02%	58.50%
国際交流センター	2.08%	3.13%	13.54%	30.21%	51.04%
全学	0.90%	1.64%	9.19%	42.48%	45.79%

Q 7「成長感覚」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	1.00%	1.89%	9.93%	41.85%	45.33%
2	0.74%	1.60%	8.94%	44.43%	44.29%
3	0.78%	1.11%	8.57%	40.89%	48.64%
4	1.32%	0.96%	5.41%	40.38%	51.92%

Q7 「成長感覚」に対する全学の回答分布

(1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」)



回答	回答者数	割合
1	157	0.90%
2	286	1.64%
3	1605	9.19%
4	7418	42.48%
5	7995	45.79%
合計	17461	

4.3.9 【Q8】 すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。「大いに満足した」を10、「まったく満足できなかった」を1として、10段階で最も近いと思われるものを選んでください。[総合満足]

包括的な設問（総合満足）であるQ8の結果をみると、全学の平均は8.19(標準偏差1.78)であり、まずは、8を超えているので「合格点」と言えるのではないだろうか。しかし、2023年度後期(平均8.26、標準偏差1.69)に比べて、僅かに減少している。学科別の平均では、その値が最も高かった学科は2023年度後期(平均8.98、標準偏差1.18)と同じく、書道学科であり、9.13(標準偏差1.30)を示している。部局の平均は教職課程センターが高く、8.63(標準偏差1.37)であった(23年度後期：平均8.13、標準偏差1.87)。

学科部局別、および全学の回答分布をみると、8が23.09%(23年度後期24.38%)、9が19.67%(23年度後期22.02%)、10が29.21%(23年度後期27.92%)である。8～10の合計は71.97%(23年度後期74.32%)となり、全体の7割以上を占めているが、2023年度後期の結果と比較すると、やや減少している。それでも最頻値10であり、全体としてはまずまずの結果と考えることができるだろう。

学科別では、10が全学平均値の29.21%を超える数値を示すのは、書道学科54.00%、スポーツ科学科42.53%、看護学科38.52%、日本語学科36.10%、英語学科33.54%、国際文化学科35.49%、中国文学科33.45%、中国語学科32.53%、国際関係学科32.01%、教育学科31.06%、英米文学科29.73%の11学科であった。書道学科は2～4までが0%であり、8～10の合計が90.33%と、概して満足度が高い。

2023年度後期に10の割合が平均値(27.92%)を超えたのは、書道学科44.76%、スポーツ科学科39.82%、日本語科33.22%、国際関係学科32.91%、看護学科31.98%、英語学科31.55%、英米文学科31.52%、日本文学科31.42%、歴史文化学科28.72%、国際文化学科28.33%の10学科であった。前年度後期よりも平均値を超えた学科が1学科増えている。

部局では、10の割合は教職課程センター34.42%、国際交流センター40.00%を示し、全学の平均値(29.21%)を上回っている。8～10の合計は教職課程センター81.67%、国際交流センター71.58%であった。

学年別では4年生が10の割合が高く、これは例年同様の傾向である。

ただし、1と2の数値については注意が必要であろう。1の割合を学年別にみると、どの学年も2より1のほうが高い。さらに、1、2年生よりも3、4年生のほうが、1と2の合計値が高い。これは学年が上がるにつれて総合満足度の低い層が多くなっていることを示している。

変動係数から総合満足度をみると、他の質問項目に比べて相対的にやや高い数値を示し、良い傾向とは言えない。総合満足度に対する学生認識が、学科間で大きな格差を生じていることを意味する。数値が最も低いのは書道学科 14.20%、次いでスポーツ科学科 16.89%であった。これ以外は18%以上となる。現代経済学科 27.48%は、書道学科との差が13.28%と倍ちかい数値を示した。次いで高い値を示したのが、経営学科 25.15%、法律学科 24.87%、中国語学科 23.46%であった。

Q 8「総合満足」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	829	8.32	1.61	19.35%
中国文学科	293	8.37	1.84	21.95%
英米文学科	730	8.28	1.69	20.45%
教育学科	1,188	8.24	1.80	21.81%
書道学科	300	9.13	1.30	14.20%
歴史文化学科	504	8.14	1.71	21.03%
社会経済学科	544	8.16	1.77	21.70%
現代経済学科	704	7.41	2.04	27.48%
中国語学科	584	8.10	1.90	23.46%
英語学科	1,595	8.42	1.63	19.32%
日本語学科	277	8.58	1.56	18.17%
法律学科	1,456	7.83	1.95	24.87%
政治学科	976	8.16	1.82	22.33%
国際関係学科	581	8.33	1.62	19.49%
国際文化学科	417	8.47	1.69	19.99%
経営学科	1,653	7.73	1.94	25.15%
スポーツ科学科	1,192	8.74	1.48	16.89%
健康科学科	732	8.18	1.78	21.82%
看護学科	527	8.50	1.65	19.46%
社会学科	1,750	8.04	1.71	21.32%
教職課程センター	491	8.63	1.37	15.88%
国際交流センター	95	8.28	2.05	24.75%
全学	17,418	8.19	1.78	21.73%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	8,463	8.13	1.83	22.56%
2	5,668	8.21	1.70	20.66%
3	2,423	8.31	1.78	21.41%
4	830	8.40	1.76	20.99%

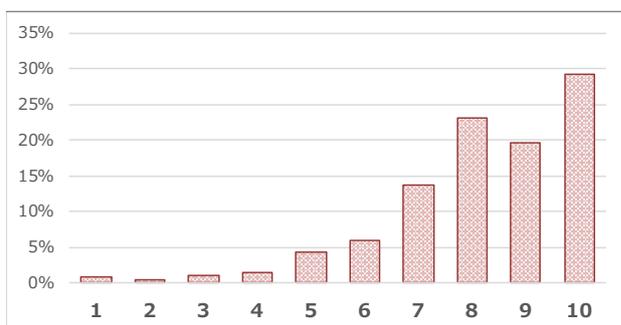
Q 8 「総合満足」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日本文学科	0.36%	0.36%	0.36%	1.33%	3.50%	6.63%	12.55%	23.52%	22.56%	28.83%
中国文学科	1.37%	0.68%	0.34%	2.05%	3.75%	3.41%	12.63%	18.43%	23.89%	33.45%
英米文学科	0.55%	0.55%	1.10%	0.96%	3.84%	4.11%	15.34%	23.29%	20.55%	29.73%
教育学科	0.84%	0.51%	1.26%	1.35%	3.62%	6.57%	13.30%	21.89%	19.61%	31.06%
書道学科	0.67%	0.00%	0.00%	0.00%	1.33%	1.67%	6.00%	13.00%	23.33%	54.00%
歴史文化学科	0.99%	0.20%	0.40%	0.79%	4.37%	9.52%	13.69%	23.21%	20.63%	26.19%
社会経済学科	1.10%	0.74%	1.29%	1.10%	2.57%	5.70%	15.44%	23.71%	22.98%	25.37%
現代経済学科	1.56%	0.71%	2.84%	4.12%	8.10%	9.52%	18.47%	22.59%	15.77%	16.34%
中国語学科	0.86%	0.51%	0.86%	1.88%	7.02%	7.02%	13.87%	20.21%	15.24%	32.53%
英語学科	0.56%	0.13%	0.38%	1.44%	3.45%	4.95%	12.54%	22.76%	20.25%	33.54%
日本語学科	0.36%	0.36%	0.72%	0.36%	3.25%	3.61%	10.83%	20.94%	23.47%	36.10%
法律学科	1.51%	0.76%	2.13%	2.27%	4.67%	6.87%	16.41%	24.86%	18.89%	21.63%
政治学科	1.54%	0.41%	0.92%	1.13%	4.30%	5.74%	12.50%	25.20%	21.21%	27.05%
国際関係学科	0.17%	0.34%	0.34%	1.38%	4.65%	5.51%	13.43%	24.10%	18.07%	32.01%
国際文化学科	0.48%	0.72%	1.20%	1.20%	2.40%	3.60%	11.51%	23.50%	19.90%	35.49%
経営学科	1.27%	0.91%	1.69%	2.60%	6.65%	7.20%	17.48%	25.65%	15.43%	21.11%
スポーツ科学科	0.42%	0.00%	0.42%	0.50%	2.18%	3.78%	9.31%	21.39%	19.46%	42.53%
健康科学科	0.82%	0.14%	1.09%	1.50%	5.74%	5.46%	15.44%	18.99%	22.40%	28.42%
看護学科	0.38%	0.19%	0.57%	0.76%	4.17%	6.26%	11.01%	19.92%	18.22%	38.52%
社会学科	0.51%	0.34%	1.20%	1.49%	5.26%	7.09%	14.57%	26.46%	19.89%	23.20%
教職課程センター	0.00%	0.20%	0.20%	0.81%	1.43%	4.07%	11.61%	23.63%	23.63%	34.42%
国際交流センター	0.00%	2.11%	2.11%	3.16%	4.21%	5.26%	11.58%	12.63%	18.95%	40.00%
全学	0.82%	0.44%	1.06%	1.54%	4.38%	5.99%	13.80%	23.09%	19.67%	29.21%

Q 8 「総合満足」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	0.86%	0.53%	1.28%	1.78%	4.90%	6.19%	13.84%	22.65%	19.56%	28.41%
2	0.56%	0.32%	0.90%	1.29%	4.22%	6.23%	14.61%	23.48%	20.32%	28.07%
3	1.16%	0.41%	0.66%	1.32%	3.63%	5.53%	12.22%	23.90%	18.41%	32.77%
4	1.20%	0.36%	1.08%	1.45%	2.29%	3.73%	12.29%	23.01%	20.24%	34.34%

Q8 「総合満足」に対する全学の回答分布
 (1「10%」/ 2「20%」/ … / 9「90%」/ 10「100%」)



回答	回答者数	割合
1	143	0.82%
2	77	0.44%
3	184	1.06%
4	268	1.54%
5	763	4.38%
6	1043	5.99%
7	2404	13.80%
8	4022	23.09%
9	3426	19.67%
10	5088	29.21%
合計	17418	

4.4.1 【クロス表に関する結果（全学）】

当該クロス表(表 1、表 2)では、それぞれの行でもっとも高い数値を赤字で示している。また、右端の列(4+5)に 4「どちらかと言えばそう思う」と 5「強くそう思う」の割合を計算した数字を記載している。尚、4 と 5 の合計はローデータに基づいて計算しているため、表では 100 分の 1 の誤差が生じる場合がある。尚、4 と 5 の合計はローデータに基づいて計算しているため、表では 100 分の 1 の誤差が生じる場合がある。

この表に注目すると、教員熱意が向上すればするほど、右側の数字が高くなっていることが見てとれる。右端の列の数字に注目する(29→77→341→4167→9681)と、教員熱意が向上すればするほど、その数値が上がっていくことがより顕著になる。この結果から、学生が教員熱意を感じるようになると、自分意欲を強く感じるようになっていくことがわかる。

● クロス集計 (【自分意欲】×【教員熱意】) [回答数]

	自分意欲					合計	4+5
	1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも思えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		
教員熱意	24	9	20	14	15	82	29
2 どちらかと言えばそう思わない	12	50	58	68	9	197	77
3 どちらとも思えない	19	94	661	279	62	1,115	341
4 どちらかと言えばそう思う	30	191	1,076	3,760	407	5,464	4,167
5 強くそう思う	25	125	725	4,470	5,211	10,556	9,681
合計	110	469	2,540	8,591	5,704	17,414	14,295

● クロス集計（〔自分の意欲〕×〔教員熱意〕）〔パーセント〕

		自分の意欲					合計	4+5
		1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		
教員熱意	1 まったくそう思わない	29.27%	10.98%	24.39%	17.07%	18.29%	100.00%	35.37%
	2 どちらかと言えばそう思わない	6.09%	25.38%	29.44%	34.52%	4.57%	100.00%	39.09%
	3 どちらとも言えない	1.70%	8.43%	59.28%	25.02%	5.56%	100.00%	30.58%
	4 どちらかと言えばそう思う	0.55%	3.50%	19.69%	68.81%	7.45%	100.00%	76.26%
	5 強くそう思う	0.24%	1.18%	6.87%	42.35%	49.37%	100.00%	91.71%

4.5.1 【相関表に関する結果（全学）】

相関係数に関しては、+0.3以上+0.6未満(-0.3~-0.6)で弱い正(負)の相関関係、+0.6以上+1未満(-0.6~-1)で強い正(負)の相関関係があると解釈できる。当該相関係数表では、弱い正の相関関係を青字、強い正の相関関係を赤字で記す。分析の結果、「難易度が適切かどうか」に関わるもの以外の変数(項目)に関して、正の相関関係がみられた。

最も重要な「総合満足度」に対しては、特に「成長実感 0.66」との間に強い正の相関関係がみられ、正の相関関係が強い順に「教員熱意 0.58」「自分の意欲 0.52」「FB 丁寧 0.50」「シラバス通りかどうか 0.49」となっている。ここから、「総合満足度」の向上に対しては、「成長実感を持てるかどうか」が項目の中で最も強い正の相関関係を示しており、次いで「教員熱意」「自分の意欲」「シラバス通りかどうか」の順で正の相関関係を表している。

次に、その「成長実感」と関連性の強い項目順に見ていくと、「教員の熱意 0.60」との間に強い正の相関関係がみられ、その後、「自分の意欲」「シラバス通りかどうか」と続く。ここから、「成長実感」の向上に対しては、「教員の熱意があるかどうか」が項目の中で最も強い正の相関関係を示しており、次いで「自分の意欲」「シラバス通りかどうか」の順で正の相関関係を表している。

「難易度が適切かどうか」に関してすべての項目間で相関関係がみられないのは、その変数の尺度内容に起因する。「総合満足度」以外の他の変数が5点を最大とする間隔尺度であるのに対し、「難易度適切」は3点を「適切である」とする質的尺度になっている。そのため、表1の相関係数表に基づくと、「難易度適切」と他の変数における関連性は、単純に2つの変数が共に変動しているかどうかを測る相関分析で統計的に判断することができない。

まとめると、「教員熱意」が「成長実感や学生の意欲向上」に繋がり、それらが「総合満足度」に大きく影響を与えていることが示された。

● 相関係数表

		Q1b	Q2	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8
		〔シラバス通り〕	〔難易度適切〕	〔FB丁寧〕	〔自分意欲〕	〔教員熱意〕	〔成長実感〕	〔総合満足〕
Q1b	〔シラバス通り〕	1.00						
Q2	〔難易度適切〕	-0.07	1.00					
Q4	〔FB丁寧〕	0.45	-0.07	1.00				
Q5	〔自分意欲〕	0.40	-0.10	0.46	1.00			
Q6	〔教員熱意〕	0.48	-0.09	0.50	0.48	1.00		
Q7	〔成長実感〕	0.48	-0.13	0.50	0.56	0.60	1.00	
Q8	〔総合満足〕	0.49	-0.23	0.50	0.52	0.58	0.66	1.00

まとめと結論（教員所属別）

2024年度前期の主な結果をまとめると、以下のようなになる。

1. シラバス内容を知っている学生(Q1a)は全学80.4%であった。この数値は2023年度後期の全学77.9%より増加しており、徐々に改善がみられる。シラバスは授業内容だけでなく、2023年度から星付けによってDPとの関連性が示され、カリキュラムの順次性や体系性がわかるようになってきている。学生が自らの学修を振り返るためにもシラバスの確認を促す必要があるだろう。
2. シラバス内容を知っている学生(Q1b)は、授業はシラバス通りに実施されたと概ね認識した。（最頻値：全学5、平均値：全学4.37）
3. 授業の難易度について(Q2)は「適切だった」という認識が最も多く、次に「やや難しかった」という認識が多かった。2023年度後期に引き続き、全体としては概ね適切な難易度設定がなされていると考えられる。
 ただし、学年別回答分布の動向を2023年度後期と比較すると、留意すべき点がある。1年生から2年生までは3「適切だった」が増加している一方で、3年生と4年生は減少している。これに連動して、3年生と4年生は5「とても難しかった」が増加している。学年が進み専門科目が増えるにつれ、授業を難しいと捉えていることが示された。学科によっては一定の層が授業を易しいと捉えており、学力差が生じているとも言える。
 全体の平均では改善はみられていても、変動係数に基づくと、学科間の相対的な格差がみられ、高い数値を示した学科は今後、改善に向けた検討や工夫が必要であろう。
4. 質問をしたことのある学生(Q3)は、全学の平均で17.9%であった。2023年度後期に比べて、質問する学生が僅かながら増えており、良い傾向と言える(23年度後期平均：全学15.7%)。

5. 質問に対する対応は概ね「迅速である」(Q4)と認識されていた(最頻値：全学5、平均値：全学4.15)。全学の平均をみると、「迅速ではない」という認識している学生が、2023年後期に比べて大幅に減少している。しかし、変動係数は全質問項目のなかでは最も高く、学科間の格差が大きいことが確認された。学生の質問に対する教員の対応如何によって、学生の質問意欲が変わることを考えると、格差を縮小させる努力が必要だろう。
6. 学生は「熱意・意欲(Q5)」をもって、授業に取り組んだと概ね認識していた(最頻値：全学4、平均値：全学4.11)。2023年度後期(平均値：全学4.07)と比較して、平均値がやや増加していることは良い傾向と言えるだろう。一方で変動係数をみると、学科間の格差が大きく、留意が必要である。
7. 担当教員は熱意を持って授業を行っている(Q6)、と学生は概ね認識していた(最頻値=全学5、平均値：全学4.51)。その平均値は2023年度後期(全学4.49)に比べて、やや上昇している。変動係数をみても、他の質問項目よりも平均が低く、学科間の格差がそれほど見られない。学生は教員に対して好意的な評価をしていると言える。
8. 学生自身の意欲の自己認識と、学生が感じる教員の熱意には、弱い正の相関関係が確認された。学生が教員熱意を感じようになると、連動して学生自身の意欲も向上するようになっていくと言える。ただし、相関係数表(全学0.48)から判断する限り、教員としては熱意をもって授業に取り組むことは当然として、熱意が学生に伝わるよう一層努力する必要があるだろう。
9. 授業を通じて知識の習得、思考の深化、技術の向上等の成長を感じたという認識(Q7)は多くの学生が持っており、最頻値が2023年度後期と同じく5である。学年別では4年生が高い数値を示していた。全学的な平均から学生の成長実感は高く示されたとはいえ、変動係数からは、平均を超える学科が半数近くあることがわかる。学科間の格差の広がりにも留意が必要であろう。
10. すべてを総合して授業に概ね満足だと認識した学生(Q8：8～10を選んだ学生)は全学で71.97%となり、2023年度後期(74.32%)より減少している(最頻値：全学10、平均値：全学8.19)。さらに、満足度の低い1の割合が全学的に微増し、学年が上がるごとにこの傾向が強まることは無視できない。変動係数の平均値も20%を超え、低いとは言えず、学科間格差も大きく、今後の動向は注視する必要がある。
11. 「自分意欲」と「教員熱意」のクロス集計表をみると、教員の「強くそう思う」と学生の「どちらかと言えばそう思う」との関係は、全学42.35%であり、お互いに「強くそう思う」の関係は、全学49.37%を示し、それぞれ合わせると、全学91.71%となる。この結果から、2024年度前期も2023年度後期と同じく、学生が教員熱意を感じるようになると、自分意欲を強く感じるようになっていくことがわかる。
12. 「総合満足」に最も影響があるのは、相関係数表によると、全学は「成長実感」であり、次いで「教員の熱意」「自身の意欲」「フィードバックが丁寧かどうか」「シラバス通りかどうか」という順序であった。
13. 変動係数から各質問項目における学科間の格差を確認できる。特に、全学平均が20%を超えるのは、「Q2：授業の難易度」22.08%、「Q4：FB丁寧」23.22%、「Q8：総合満足度」21.73%であった。授業の難易度と総合満足度は学生の学力を反映していると考えられ、変動係数の大きい学科ほどバラツキが大きくなっていると言える。その分、授業における学生対応は難しくなるため、今後さらなる授業改善が求められるだろう。

【全学共通科目（学生所属別）】

2023 年度後期に引き続き、全学共通科目を対象に学生の所属学科ごとに、アンケート結果を集計し分析を行った。2024 年度前期から学科別に「変動係数」を算出し、格差があるか否かの検証を試みた。結果は次の通りである。

回答率が最も高かった学科は看護学科 64.21%であった。全学平均 34.23%は 2023 年度後期の 30.28%より 3.95%増加している。回答率が平均値以上である学科は、高い順に書道学科 51.49%、法律学科 47.74%、日本文学科 46.21%、歴史文化学科 43.98%、社会学科 42.91%、英米文学科 34.77%の 7 学科であった。20 学科中 13 学科が平均以下の回答率となった。

【全学共通科目（学生所属別）】

学科/部局別（左）および学年別（右）回答率

学科 / 部局	回答数	未回答数	合計	回答率
日本文学科	414	482	896	46.21%
中国文学科	24	106	130	18.46%
英米文学科	186	349	535	34.77%
教育学科	157	342	499	31.46%
書道学科	69	65	134	51.49%
歴史文化学科	157	200	357	43.98%
社会経済学科	318	699	1,017	31.27%
現代経済学科	214	556	770	27.79%
中国語学科	97	238	335	28.96%
英語学科	221	582	803	27.52%
日本語学科	64	140	204	31.37%
法律学科	465	509	974	47.74%
政治学科	183	370	553	33.09%
国際関係学科	91	348	439	20.73%
国際文化学科	70	237	307	22.80%
経営学科	420	1,071	1,491	28.17%
スポーツ科学科	155	394	549	28.23%
健康科学科	78	197	275	28.36%
看護学科	183	102	285	64.21%
社会学科	227	302	529	42.91%
全学	3,793	7,289	11,082	34.23%

学年	回答数	未回答数	合計	回答率
1	2,447	3,220	5,667	43.18%
2	1,066	2,633	3,699	28.82%
3	142	611	753	18.86%
4	131	807	938	13.97%

【Q1a】 あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか。 [シラバス既知]

2「知っている」と回答したのは全学平均 81.4%であった。比率が最も高かったのは、中国文学科 100.0%である(23 年度後期：国際関係学科 90.4%)。中国文学科は今回のアンケート自体への回答率は最も低かったが、回答者全員が「シラバス内容を知っている」を選んだことになる。授業にまじめに取り組む学生ほど、アンケートにもまじめに回答する傾向にあるようだ。

全学平均の 81.4%を超えている学科は、国際関係学科 95.6%、健康科学科 89.7%、国際

文化学科 88.6%、中国語学科 87.6%、政治学科 85.9%、看護学科 84.8%、社会経済学科 84.6%、日本文学科 82.9%、現代経済学科 82.8%、書道学科 82.6%、教育学科 82.4%、法律学科 82.3%、経営学科 82.1%となっている。

これに対して、1「知らない」という回答の平均は 18.6%であった。1が最も高かった学科はスポーツ科学科 32.5%であった。平均値を超えていたのが、社会学科 28.8%、英語学科 26.2%、英米文学科 23.8%、歴史文化学科 22.2%、日本語学科 20.3%であり、この6学科の学生は他学科に比べ、シラバスを見ていないという結果になった。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 1a「シラバス既知」の学科/部局別（左）および学年別（右）回答

（1「いいえ（あまりよく）知りません」/ 2「はい（おおそ）知っています」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	17.1%	82.9%
中国文学科	0.0%	100.0%
英米文学科	23.8%	76.2%
教育学科	17.6%	82.4%
書道学科	17.4%	82.6%
歴史文化学科	22.2%	77.8%
社会経済学科	15.4%	84.6%
現代経済学科	17.2%	82.8%
中国語学科	12.4%	87.6%
英語学科	26.2%	73.8%
日本語学科	20.3%	79.7%
法律学科	17.7%	82.3%
政治学科	14.1%	85.9%
国際関係学科	4.4%	95.6%
国際文化学科	11.4%	88.6%
経営学科	17.9%	82.1%
スポーツ科学科	32.5%	67.5%
健康科学科	10.3%	89.7%
看護学科	15.2%	84.8%
社会学科	28.8%	71.2%
全学	18.6%	81.4%

学年	1	2
1	19.8%	80.2%
2	17.3%	82.7%
3	13.3%	86.7%
4	13.6%	86.4%

【Q1b】 この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。[シラバス通り]

この設問は Q1a で 2「はい（おおそ）知っています」と回答した学生のみが回答した。

5「強くそう思う」と 4「どちらかと言えばそう思う」を回答した比率の合計が最も大きい学科は国際文化学科 98.39%であった(23 年度後期：中国文学科 100%)。4 と 5 の比率の全学合計は 91.60%と、2023 年度後期(90.37%)よりもやや改善した。多くの学科が 91.60%を超えている一方で、英語学科 89.33%、教育学科 88.97%、英米文学科 87.67%、社会学科

86.67%、スポーツ科学科 86.29%、中国語学科 80.65%の 6 学科は 90%以下であった。

尚、4 と 5 の合計はローデータに基づいて計算しているため、表では 100 分の 1 の誤差が生じているが、全体には影響を及ぼさない。

変動係数をみると、全体的に他の質問項目と比較して低い水準になっている。最大値は中国語学科 18.41%、最小値は国際文化学科 11.63%であった。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	353	4.46	0.64	14.31%
中国文学科	25	4.56	0.57	12.53%
英米文学科	146	4.34	0.74	17.14%
教育学科	136	4.43	0.77	17.46%
書道学科	59	4.39	0.64	14.54%
歴史文化学科	128	4.45	0.64	14.27%
社会経済学科	283	4.35	0.71	16.31%
現代経済学科	187	4.28	0.69	16.17%
中国語学科	93	4.23	0.78	18.41%
英語学科	178	4.42	0.71	16.03%
日本語学科	54	4.63	0.62	13.34%
法律学科	400	4.39	0.65	14.90%
政治学科	166	4.47	0.65	14.46%
国際関係学科	89	4.46	0.64	14.28%
国際文化学科	62	4.55	0.53	11.63%
経営学科	364	4.40	0.65	14.75%
スポーツ科学科	124	4.30	0.74	17.22%
健康科学科	73	4.49	0.58	12.83%
看護学科	160	4.61	0.57	12.40%
社会学科	180	4.27	0.71	16.70%
全学	3,260	4.40	0.68	15.39%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	2,077	4.41	0.68	15.44%
2	930	4.37	0.69	15.72%
3	130	4.44	0.59	13.40%
4	116	4.52	0.62	13.78%

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.28%	0.57%	4.53%	42.21%	52.41%
中国文学科	0.00%	0.00%	4.00%	36.00%	60.00%
英米文学科	0.00%	2.05%	10.27%	39.04%	48.63%
教育学科	0.74%	1.47%	8.82%	32.35%	56.62%
書道学科	0.00%	0.00%	8.47%	44.07%	47.46%
歴史文化学科	0.00%	0.78%	5.47%	41.41%	52.34%
社会経済学科	0.71%	0.35%	8.48%	43.82%	46.64%
現代経済学科	0.53%	1.60%	5.88%	53.48%	38.50%
中国語学科	0.00%	1.08%	18.28%	37.63%	43.01%
英語学科	0.00%	1.12%	9.55%	35.96%	53.37%
日本語学科	0.00%	0.00%	7.41%	22.22%	70.37%
法律学科	0.00%	1.00%	6.50%	44.75%	47.75%
政治学科	0.00%	1.20%	4.82%	39.76%	54.22%
国際関係学科	0.00%	0.00%	7.87%	38.20%	53.93%
国際文化学科	0.00%	0.00%	1.61%	41.94%	56.45%
経営学科	0.27%	0.27%	6.59%	45.05%	47.80%
スポーツ科学科	0.00%	1.61%	12.10%	41.13%	45.16%
健康科学科	0.00%	0.00%	4.11%	42.47%	53.42%
看護学科	0.00%	0.00%	4.38%	30.63%	65.00%
社会学科	0.00%	1.11%	12.22%	45.00%	41.67%
全学	0.18%	0.80%	7.42%	41.53%	50.06%

【Q2】 自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。[難易度適切]

「Q2：授業難易度」の回答分布状況をみると、1「とても易しかった」1.77%（2023年度後期 1.89%）、2「やや易しかった」2.69%（23年度後期 3.20%）、3「適切だった」52.95%（23年度後期 51.91%）、4「やや難しかった」32.89%（23年度後期 33.99%）、5「とても難しかった」9.70%（23年度後期 9.01%）と、1、3、5が微増している。

3と4の合計が最も高かったのは国際文化学科 91.43%（23年度後期は中国文学科 97.37%）である。ただし、国際文化学科の学生は4の比率（51.43%）が5割を超えており、全学共通科目に対して、総じて「やや難しい」と感じていると言える。中国文学科では20%の学生が5を選び（23年度後期 2.63%）、1と2を選ぶ学生も合計12%（23年度後期 0%）いることから、授業の難易度の受け止め方が両極化していると考えられる。

3と4の合計比率が90%を超えるのは、国際文化学科を含め、日本語学科 90.63%と日本文学科 90.12%の3学科であった。さらに、1と2の合計と5の数値を比較すると、両比率

が同率であるのは、国際文化学科 4.29%とスポーツ科学科 11.54%であった。これ以外は5のほうが高い。健康科学科は1と2の合計 14.10%、5は 8.97%であった。全学共通科目に対して「易しい」と捉えている学生が、健康科学科は他学科よりも多いことがわかる。

変動係数をみると全学平均は 22.42%であり、他の質問項目と比べても高い数値を示している。難易度は学生の学力と深く関わることから、この数値は注視する必要があるだろう。書道学科 18.70%と日本語学科 18.71%以外の学科は 20%を超えている。学科間の格差が大きく、中国文学科は 31.60%と高い数値を示した。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 2「難易度適切」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	415	3.43	0.71	20.81%
中国文学科	25	3.48	1.10	31.60%
英米文学科	185	3.56	0.76	21.40%
教育学科	157	3.55	0.81	22.77%
書道学科	69	3.64	0.68	18.70%
歴史文化学科	158	3.42	0.71	20.60%
社会経済学科	319	3.55	0.83	23.30%
現代経済学科	215	3.57	0.84	23.47%
中国語学科	97	3.51	0.84	23.93%
英語学科	220	3.51	0.80	22.81%
日本語学科	64	3.53	0.66	18.71%
法律学科	459	3.35	0.72	21.51%
政治学科	184	3.44	0.73	21.36%
国際関係学科	91	3.57	0.79	22.02%
国際文化学科	70	3.53	0.73	20.73%
経営学科	419	3.49	0.71	20.30%
スポーツ科学科	156	3.28	0.95	28.82%
健康科学科	78	3.18	0.93	29.26%
看護学科	184	3.46	0.77	22.31%
社会学科	229	3.34	0.73	21.80%
全学	3,794	3.46	0.78	22.42%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	2,443	3.45	0.79	22.94%
2	1,070	3.48	0.75	21.51%
3	143	3.48	0.77	21.97%
4	131	3.39	0.69	20.48%

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q2「難易度適切」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	1.69%	1.69%	54.70%	35.42%	6.51%
中国文学科	8.00%	4.00%	40.00%	28.00%	20.00%
英米文学科	2.16%	0.54%	45.95%	41.62%	9.73%
教育学科	1.91%	1.27%	49.68%	33.76%	13.38%
書道学科	0.00%	0.00%	47.83%	40.58%	11.59%
歴史文化学科	1.27%	1.90%	56.96%	32.91%	6.96%
社会経済学科	1.88%	3.45%	44.83%	36.99%	12.85%
現代経済学科	1.86%	2.33%	47.91%	33.02%	14.88%
中国語学科	3.09%	0.00%	53.61%	29.90%	13.40%
英語学科	1.36%	2.27%	53.64%	29.55%	13.18%
日本語学科	0.00%	0.00%	56.25%	34.38%	9.38%
法律学科	1.31%	3.92%	59.69%	28.32%	6.75%
政治学科	0.54%	4.89%	52.72%	33.70%	8.15%
国際関係学科	1.10%	2.20%	48.35%	35.16%	13.19%
国際文化学科	2.86%	1.43%	40.00%	51.43%	4.29%
経営学科	0.48%	2.15%	53.94%	34.37%	9.07%
スポーツ科学科	5.77%	5.77%	54.49%	22.44%	11.54%
健康科学科	6.41%	7.69%	56.41%	20.51%	8.97%
看護学科	1.63%	2.72%	53.26%	32.61%	9.78%
社会学科	1.75%	3.49%	60.26%	27.95%	6.55%
全学	1.77%	2.69%	52.95%	32.89%	9.70%

【Q3】 あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問をしたことがありますか。

[質問対応]

1「ある」という回答の全学平均は 12.4%であった。この平均値を超えている学科は、国際文化学科 22.9%、英語学科 20.9%、政治学科 20.2%、日本語学科 18.8%、スポーツ科学学科 17.2%、中国文学科 16.0%、教育学科 16.0%、健康科学科 14.1%、中国語学科 13.7%、社会経済学科 13.5%、国際関係学科 13.3%、書道学科 13.0%、看護学科 12.8%の 13 学科であった。全学共通科目においては質問に関しては消極的な姿勢がみえる。

これに対して、2「したことがない」という回答の全学平均値は 87.6%である。法律学科 94.5%、歴史文化学科 93.5%、社会学科 90.7%、日本文学科 90.3%、経営学科 88.5%、現代経済学科 88.3%、英米文学科 87.8%で、7 学科は平均値を上回り、そのうち 4 学科は 9 割を超える結果となった。全学共通科目に対する学生の授業参加は必ずしも積極的であるとは言えない。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q3「質問対応」の学科/部局別（左）および学年別（右）回答

（1「はい、あります」/ 2「いいえ、したことはありません」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	9.7%	90.3%
中国文学科	16.0%	84.0%
英米文学科	12.2%	87.8%
教育学科	16.0%	84.0%
書道学科	13.0%	87.0%
歴史文化学科	6.5%	93.5%
社会経済学科	13.5%	86.5%
現代経済学科	11.7%	88.3%
中国語学科	13.7%	86.3%
英語学科	20.9%	79.1%
日本語学科	18.8%	81.3%
法律学科	5.5%	94.5%
政治学科	20.2%	79.8%
国際関係学科	13.3%	86.7%
国際文化学科	22.9%	77.1%
経営学科	11.5%	88.5%
スポーツ科学科	17.2%	82.8%
健康科学科	14.1%	85.9%
看護学科	12.8%	87.2%
社会学科	9.3%	90.7%
全学	12.4%	87.6%

学年	1	2
1	12.5%	87.5%
2	11.9%	88.1%
3	11.2%	88.8%
4	17.6%	82.4%

【Q4】質問に対する教員の対応は適当だったと思いますか。[フィードバック]

この設問は、Q3で「授業に関連して質問したことがある」を選んだ学生のみが回答した。5「強くそう思う」と4「どちらかと言えばそう思う」の比率の合計は68.32%であった。2023年度後期の合計51.09%よりも大幅に増加した。この68.32%を超える学科は、日本語学科95.00%、看護学科83.64%、英語学科81.40%、書道学科80.77%、政治学科77.50%、国際文化学科77.42%、健康科学科75.00%、教育学科72.41%の8学科であった。

一方で、1「まったくそう思わない」と2「どちらかと言えばそう思わない」の合計は全学で3.14%であった。2023年度後期19.59%に比べると大幅に減少した。学科別の合計が3.14%を超えているのは、中国語学科11.11%、国際関係学科9.38%、英米文学科8.20%、スポーツ科学科7.35%、現代経済学科5.41%、中国語学科4.76%、健康科学科3.57%、教育学科3.45%の8学科であった。

変動係数をみると、教員所属別と同じく、他の項目に比べて相対的に高い数値が確認され

た。中国文学科が 33.33% という高い係数を示した。質問する学生数が少なかったとはいえ、質問対応の格差の大きさをみる限り、適切な対応が求められる。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q4「フィードバック」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	83	4.00	0.92	22.96%
中国文学科	9	4.00	1.33	33.33%
英米文学科	61	3.95	1.17	29.50%
教育学科	58	4.12	0.95	23.01%
書道学科	26	4.46	0.80	17.83%
歴史文化学科	33	3.94	0.89	22.48%
社会経済学科	107	3.98	0.92	23.03%
現代経済学科	74	3.92	1.02	26.12%
中国語学科	42	3.86	1.01	26.28%
英語学科	86	4.33	0.91	20.99%
日本語学科	20	4.70	0.56	11.85%
法律学科	119	3.89	0.91	23.51%
政治学科	80	4.29	0.81	18.87%
国際関係学科	32	3.91	1.23	31.59%
国際文化学科	31	4.32	0.82	18.94%
経営学科	139	4.04	0.96	23.85%
スポーツ科学科	68	3.96	1.13	28.57%
健康科学科	28	4.14	0.87	21.12%
看護学科	55	4.40	0.87	19.67%
社会学科	58	4.07	0.96	23.65%
全学	1,209	4.08	0.97	23.89%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	794	4.04	0.99	24.62%
2	322	4.16	0.92	22.13%
3	39	3.90	1.06	27.13%
4	49	4.31	0.84	19.46%

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q4「フィードバック」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.00%	2.41%	34.94%	22.89%	39.76%
中国文学科	11.11%	0.00%	22.22%	11.11%	55.56%
英米文学科	6.56%	1.64%	26.23%	21.31%	44.26%
教育学科	1.72%	1.72%	24.14%	27.59%	44.83%
書道学科	0.00%	0.00%	19.23%	15.38%	65.38%
歴史文化学科	0.00%	3.03%	33.33%	30.30%	33.33%
社会経済学科	0.93%	0.93%	34.58%	26.17%	37.38%
現代経済学科	4.05%	1.35%	28.38%	31.08%	35.14%
中国語学科	2.38%	2.38%	38.10%	21.43%	35.71%
英語学科	2.33%	0.00%	16.28%	25.58%	55.81%
日本語学科	0.00%	0.00%	5.00%	20.00%	75.00%
法律学科	0.84%	0.84%	40.34%	24.37%	33.61%
政治学科	0.00%	0.00%	22.50%	26.25%	51.25%
国際関係学科	9.38%	0.00%	25.00%	21.88%	43.75%
国際文化学科	0.00%	0.00%	22.58%	22.58%	54.84%
経営学科	1.44%	1.44%	31.65%	23.02%	42.45%
スポーツ科学科	4.41%	2.94%	30.88%	16.18%	45.59%
健康科学科	0.00%	3.57%	21.43%	32.14%	42.86%
看護学科	1.82%	0.00%	14.55%	23.64%	60.00%
社会学科	1.72%	0.00%	32.76%	20.69%	44.83%
全学	1.99%	1.16%	28.54%	23.99%	44.33%

【Q5】あなたはこの授業に対して意欲／熱意を持って取り組んだと思いますか。[自分意欲]

「Q5：学生の意欲／熱意」の回答結果は、4「どちらかと言えばそう思う」と5「強くそう思う」の比率の合計が81.51%と、2023年度後期(79.93%)より高かった。学科別で最も高かったのが健康科学科92.31%であった。健康科学科以外では、4と5の合計が全学合計の81.51%を上回る学科は、国際文化学科91.43%、日本語学科90.48%、中国文学科88.00%、国際関係学科87.78%、政治学科85.87%、日本文学科85.54%、英語学科85.07%、歴史文化学科83.54%、法律学科83.37%、看護学科82.07%であった。

1「まったくそう思わない」と2「どちらかと言えばそう思わない」の合計は3.63%と、2023年度後期(4.25%)よりもやや低くなった。一方で、この3.63%を超える学科は、書道学科7.35%、経営学科6.44%、中国語学科6.19%、社会学科5.70%、現代経済学科5.14%、スポーツ科学科5.10%、社会経済学科4.09%、中国文学科4.00%、英米文学科3.76%の9学科であった。国際文化学科は0%であった。

変動係数に基づいて判断する限り、学科の格差は明らかである。その係数を最も高く示しているのは書道学科 22.96%であり、全学共通科目に対する意欲のバラツキが示された。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 5「自分意欲」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	415	4.14	0.81	19.64%
中国文学科	25	4.32	0.93	21.44%
英米文学科	186	4.08	0.79	19.46%
教育学科	159	4.08	0.79	19.42%
書道学科	68	4.25	0.98	22.96%
歴史文化学科	158	4.07	0.69	16.84%
社会経済学科	318	3.93	0.79	20.20%
現代経済学科	214	3.94	0.79	19.95%
中国語学科	97	3.87	0.86	22.17%
英語学科	221	4.19	0.78	18.56%
日本語学科	63	4.35	0.69	15.95%
法律学科	463	4.08	0.73	17.82%
政治学科	184	4.18	0.72	17.24%
国際関係学科	90	4.19	0.66	15.87%
国際文化学科	70	4.33	0.63	14.47%
経営学科	419	4.02	0.86	21.35%
スポーツ科学科	157	4.12	0.93	22.64%
健康科学科	78	4.37	0.66	15.15%
看護学科	184	4.25	0.80	18.88%
社会学科	228	4.02	0.91	22.60%
全学	3,797	4.09	0.81	19.67%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	2,449	4.11	0.79	19.32%
2	1,068	4.06	0.84	20.72%
3	141	4.02	0.84	20.83%
4	132	4.23	0.68	16.11%

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q5「自分意欲」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	1.93%	1.45%	11.08%	51.57%	33.98%
中国文学科	4.00%	0.00%	8.00%	36.00%	52.00%
英米文学科	0.54%	3.23%	15.05%	50.54%	30.65%
教育学科	0.63%	1.26%	20.13%	45.28%	32.70%
書道学科	1.47%	5.88%	11.76%	27.94%	52.94%
歴史文化学科	0.00%	1.90%	14.56%	58.23%	25.32%
社会経済学科	0.63%	3.46%	21.07%	51.89%	22.96%
現代経済学科	0.93%	4.21%	15.89%	57.94%	21.03%
中国語学科	0.00%	6.19%	25.77%	43.30%	24.74%
英語学科	1.36%	0.45%	13.12%	48.42%	36.65%
日本語学科	0.00%	1.59%	7.94%	44.44%	46.03%
法律学科	0.22%	2.59%	13.82%	56.16%	27.21%
政治学科	0.00%	2.17%	11.96%	51.09%	34.78%
国際関係学科	0.00%	1.11%	11.11%	55.56%	32.22%
国際文化学科	0.00%	0.00%	8.57%	50.00%	41.43%
経営学科	0.48%	5.97%	15.04%	47.97%	30.55%
スポーツ科学科	1.27%	3.82%	19.11%	33.12%	42.68%
健康科学科	0.00%	1.28%	6.41%	46.15%	46.15%
看護学科	0.54%	1.09%	16.30%	36.96%	45.11%
社会学科	2.63%	3.07%	15.35%	47.81%	31.14%
全学	0.82%	2.82%	14.85%	49.28%	32.24%

【Q6】教員は熱意を持ってこの授業を行ったと思いますか。[教員熱意]

「Q6:教員の意欲/熱意」の回答結果は、4「どちらかと言えばそう思う」と5「強くそう思う」の比率の合計が92.95%であった。全学共通科目を担当する教員の意欲や熱意を高く評価している。スポーツ科学科89.17%、中国語学科86.60%、教育学科86.16%の3学科以外の学科は90%以上の高い比率を示している。

1「まったくそう思わない」と2「どちらかと言えばそう思わない」の合計が中国文学科4.00%と国際関係学科2.20%であったが、この2学科以外は2%未満であった。書道学科、歴史文化学科、日本語学科、国際文化学科、健康科学科、看護学科は1と2の合計は0%であり、教員の授業における熱意を高く評価している結果となった。

変動係数をみると、全学平均が14.94%と、他の質問項目よりも低い数値であった。教員熱意に関して学科間の格差は生じているものの、大きい値ではなく良い傾向と言えるだろう。ただし、中国文学科(20.08%)は、他学科に比べて相対的に高い数値を示している。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 6「教員熱意」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	415	4.54	0.67	14.86%
中国文学科	25	4.48	0.90	20.08%
英米文学科	186	4.55	0.65	14.24%
教育学科	159	4.40	0.77	17.49%
書道学科	69	4.74	0.50	10.57%
歴史文化学科	158	4.56	0.57	12.47%
社会経済学科	319	4.51	0.68	14.98%
現代経済学科	215	4.38	0.72	16.38%
中国語学科	97	4.40	0.74	16.84%
英語学科	220	4.55	0.69	15.12%
日本語学科	64	4.66	0.59	12.72%
法律学科	464	4.53	0.62	13.66%
政治学科	184	4.63	0.58	12.62%
国際関係学科	91	4.58	0.71	15.54%
国際文化学科	70	4.64	0.54	11.53%
経営学科	419	4.47	0.73	16.31%
スポーツ科学科	157	4.46	0.74	16.48%
健康科学科	78	4.55	0.63	13.92%
看護学科	184	4.61	0.61	13.17%
社会学科	228	4.43	0.70	15.81%
全学	3,802	4.52	0.68	14.94%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	2,450	4.52	0.67	14.77%
2	1,070	4.50	0.70	15.46%
3	143	4.52	0.70	15.43%
4	132	4.63	0.62	13.40%

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 6「教員熱意」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.48%	1.20%	3.86%	32.53%	61.93%
中国文学科	4.00%	0.00%	4.00%	28.00%	64.00%
英米文学科	0.54%	0.54%	3.76%	33.87%	61.29%
教育学科	0.00%	1.89%	11.95%	30.19%	55.97%
書道学科	0.00%	0.00%	2.90%	20.29%	76.81%
歴史文化学科	0.00%	0.00%	3.80%	36.71%	59.49%
社会経済学科	0.31%	0.31%	7.52%	31.66%	60.19%
現代経済学科	0.93%	0.47%	6.98%	42.79%	48.84%
中国語学科	0.00%	1.03%	12.37%	31.96%	54.64%
英語学科	0.91%	0.00%	5.91%	29.09%	64.09%
日本語学科	0.00%	0.00%	6.25%	21.88%	71.88%
法律学科	0.22%	0.43%	4.09%	36.85%	58.41%
政治学科	0.00%	0.54%	3.80%	27.72%	67.93%
国際関係学科	1.10%	1.10%	3.30%	27.47%	67.03%
国際文化学科	0.00%	0.00%	2.86%	30.00%	67.14%
経営学科	0.48%	1.43%	6.92%	33.41%	57.76%
スポーツ科学科	0.00%	1.91%	8.92%	29.94%	59.24%
健康科学科	0.00%	0.00%	7.69%	29.49%	62.82%
看護学科	0.00%	0.00%	6.52%	26.09%	67.39%
社会学科	0.44%	0.88%	7.02%	38.60%	53.07%
全学	0.37%	0.71%	5.97%	32.64%	60.31%

【Q7】 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉えかたが深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。[成長実感]

「Q7：成長実感」の回答結果は、4「どちらかと言えばそう思う」と5「強くそう思う」の比率の合計は88.56%を示し、2023年度後期の88.31%から微増している。

一方で、経営学科88.10%、中国文学科88.00%、英語学科87.78%、社会経済学科86.79%、現代経済学科86.51%、英米文学科84.95%、スポーツ科学科84.08%、教育学科83.02%、社会学科82.89%、中国語学科81.44%の10学科が平均を下回った。とはいえ、8割以上の学生が授業を通じて成長を実感しているという結果となった。書道学科と国際文化学科は1「まったくそう思わない」と2「どちらかと言えばそう思わない」が0%と、全学共通科目を通じての学びを高く評価していると言える。

変動係数をみると、全学平均17.49%であった。20%を超えたのは中国語学科20.75%と社会学科20.02%の2学科で、この2学科以外は比較的ばらつきが少ない結果となった。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q7「成長感覚」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	414	4.40	0.69	15.77%
中国文学科	25	4.40	0.80	18.18%
英米文学科	186	4.22	0.77	18.22%
教育学科	159	4.30	0.76	17.63%
書道学科	69	4.62	0.57	12.27%
歴史文化学科	158	4.31	0.76	17.69%
社会経済学科	318	4.23	0.78	18.39%
現代経済学科	215	4.18	0.80	19.27%
中国語学科	97	4.21	0.87	20.75%
英語学科	221	4.30	0.79	18.40%
日本語学科	64	4.44	0.68	15.36%
法律学科	464	4.36	0.68	15.54%
政治学科	184	4.41	0.71	16.08%
国際関係学科	91	4.42	0.71	16.12%
国際文化学科	70	4.53	0.58	12.78%
経営学科	420	4.29	0.75	17.41%
スポーツ科学科	157	4.29	0.81	19.00%
健康科学科	78	4.33	0.75	17.20%
看護学科	184	4.32	0.77	17.90%
社会学科	228	4.15	0.83	20.02%
全学	3,802	4.31	0.75	17.49%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	2,450	4.30	0.76	17.70%
2	1,070	4.31	0.76	17.53%
3	143	4.41	0.75	17.03%
4	132	4.55	0.58	12.77%

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q7「成長感覚」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.72%	0.97%	4.83%	44.20%	49.28%
中国文学科	0.00%	4.00%	8.00%	32.00%	56.00%
英米文学科	0.54%	1.61%	12.90%	45.16%	39.78%
教育学科	0.00%	0.63%	16.35%	35.22%	47.80%
書道学科	0.00%	0.00%	4.35%	28.99%	66.67%
歴史文化学科	1.27%	1.27%	6.96%	46.20%	44.30%
社会経済学科	1.26%	0.94%	11.01%	46.86%	39.94%
現代経済学科	1.40%	2.33%	9.77%	50.23%	36.28%
中国語学科	1.03%	3.09%	14.43%	37.11%	44.33%
英語学科	1.36%	0.90%	9.95%	42.08%	45.70%
日本語学科	0.00%	1.56%	6.25%	39.06%	53.13%
法律学科	0.00%	1.08%	8.19%	44.18%	46.55%
政治学科	0.54%	0.54%	8.15%	38.59%	52.17%
国際関係学科	1.10%	0.00%	6.59%	40.66%	51.65%
国際文化学科	0.00%	0.00%	4.29%	38.57%	57.14%
経営学科	0.48%	1.67%	9.76%	44.76%	43.33%
スポーツ科学科	0.64%	1.91%	13.38%	36.31%	47.77%
健康科学科	1.28%	0.00%	8.97%	43.59%	46.15%
看護学科	1.09%	1.63%	7.61%	43.48%	46.20%
社会学科	1.32%	2.19%	13.60%	45.61%	37.28%
全学	0.74%	1.29%	9.42%	43.08%	45.48%

【Q8】すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。10を「100%満足」、1を「10%満足」として10段階で最も近いと思われるものを選んで下さい。[総合満足]

「Q8：総合満足」は、8から10までの比率を合計すると、全学平均は73.21%となり、2023年度後期の74.72%に比べてやや減少した。各学科の回答は67.76%(現代経済学科)から87.14%(国際文化学科)の間に分布している。その中で、全学平均の73.21%を下回るのは、英語学科72.40%、スポーツ科学科72.26%、国際関係学科71.43%、社会経済学科71.07%、英米文学科70.97%、法律学科70.97%、教育学科69.43%、中国語学科69.08%、社会学科67.84%、現代経済学科67.76%の10学科であった。8から10までの比率の合計でみると、20学科中10学科が平均を下回った。

これを7から10に広げると、全学平均は87.11%となる。9割には満たないが、全体としてはまずまずの結果となる。

ただし、各評価ごとに前年度後期と比較して増減をみると留意すべき点がある。1の全学

平均 0.55% (23 年度後期 0.22%)、2 は 0.32% (同 0.15%)、3 は 0.69% (同 0.62%)、4 は 1.27% (同 0.98%)、5 は 4.30% (同 3.81%)、6 は 5.77% (同 5.48%)、7 は 13.89% (同 14.02%)、8 は 23.10% (同 24.52%)、9 は 19.59% (同 21.07%)、10 は 30.53% (同 29.13%) という結果となった。1 から 6 までのすべての評価が増加しており、8 と 9 で減少している。すなわち、総合満足度の低い層が増え、高い層が減少していることになる。現状は微増減であるが、明らかに傾向として表れていることに留意が必要であろう。

変動係数をみると、全学共通科目の総合満足は、学科間に大きな格差が生じていることが確認できる。全学平均 20.40% に対し、中国語学科 24.41%、社会学科 23.03%、英語学科 22.65%、教育学科 22.25%、社会経済学科 22.10%、スポーツ科学科 21.57%、現代経済学科 21.31%、経営学科 21.21%、英米文学科 21.00% の 9 学科が高い値を示した。最も低い国際文化学科 12.39% と最も数値の高い中国語学科 24.41% では、およそ倍の格差が生じている。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 8「総合満足」の学科/部局別 (左) および学年別 (右) の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	414	8.41	1.63	19.40%
中国文学科	24	8.71	1.74	20.02%
英米文学科	186	8.08	1.70	21.00%
教育学科	157	8.21	1.83	22.25%
書道学科	69	8.74	1.44	16.49%
歴史文化学科	157	8.43	1.56	18.57%
社会経済学科	318	8.03	1.77	22.10%
現代経済学科	214	8.00	1.70	21.31%
中国語学科	97	8.01	1.96	24.41%
英語学科	221	8.35	1.89	22.65%
日本語学科	64	8.55	1.35	15.74%
法律学科	465	8.24	1.52	18.42%
政治学科	183	8.56	1.46	17.04%
国際関係学科	91	8.42	1.58	18.73%
国際文化学科	70	8.73	1.08	12.39%
経営学科	420	8.29	1.76	21.21%
スポーツ科学科	155	8.25	1.78	21.57%
健康科学科	78	8.53	1.48	17.39%
看護学科	183	8.46	1.68	19.87%
社会学科	227	8.01	1.84	23.03%
全学	3,793	8.28	1.69	20.40%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	2,447	8.26	1.69	20.51%
2	1,066	8.24	1.71	20.70%
3	142	8.45	1.60	18.98%
4	131	8.72	1.42	16.30%

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 8「総合満足」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日本文学科	0.72%	0.00%	0.72%	1.45%	2.66%	5.31%	11.35%	24.15%	21.50%	32.13%
中国文学科	0.00%	0.00%	0.00%	4.17%	4.17%	4.17%	12.50%	4.17%	20.83%	50.00%
英米文学科	0.54%	0.00%	1.61%	1.08%	4.84%	7.53%	13.44%	29.57%	16.13%	25.27%
教育学科	0.00%	0.64%	0.64%	1.91%	7.64%	7.64%	12.10%	19.11%	14.65%	35.67%
書道学科	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	2.90%	5.80%	13.04%	17.39%	14.49%	46.38%
歴史文化学科	0.64%	0.64%	0.00%	0.64%	1.91%	5.73%	12.10%	27.39%	19.11%	31.85%
社会経済学科	0.94%	0.31%	0.94%	2.20%	5.03%	6.60%	12.89%	28.93%	18.24%	23.90%
現代経済学科	0.47%	0.47%	0.93%	2.34%	3.74%	7.94%	16.36%	27.10%	18.22%	22.43%
中国語学科	0.00%	2.06%	0.00%	0.00%	16.49%	3.09%	9.28%	20.62%	18.56%	29.90%
英語学科	1.81%	0.00%	0.45%	0.45%	5.88%	6.33%	12.67%	16.29%	17.65%	38.46%
日本語学科	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	3.13%	4.69%	14.06%	21.88%	25.00%	31.25%
法律学科	0.00%	0.43%	1.08%	1.08%	2.37%	4.30%	19.78%	22.58%	25.16%	23.23%
政治学科	0.00%	0.00%	0.55%	0.55%	2.19%	6.56%	12.57%	19.67%	22.95%	34.97%
国際関係学科	1.10%	0.00%	0.00%	0.00%	2.20%	5.49%	19.78%	16.48%	23.08%	31.87%
国際文化学科	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1.43%	11.43%	32.86%	21.43%	32.86%
経営学科	0.48%	0.48%	0.95%	1.67%	5.00%	5.24%	11.90%	22.86%	19.05%	32.38%
スポーツ科学科	0.65%	0.65%	0.00%	0.65%	8.39%	5.16%	12.26%	21.29%	18.06%	32.90%
健康科学科	0.00%	0.00%	1.28%	0.00%	2.56%	3.85%	14.10%	26.92%	14.10%	37.18%
看護学科	0.55%	0.00%	0.00%	1.64%	3.83%	6.56%	14.21%	18.03%	14.75%	40.44%
社会学科	1.32%	0.44%	0.88%	2.20%	4.41%	7.05%	15.86%	23.35%	19.82%	24.67%
全学	0.55%	0.32%	0.69%	1.27%	4.30%	5.77%	13.89%	23.10%	19.59%	30.53%

まとめと結論（全学共通科目・学生所属別）

2023年度後期に続き、学生の所属を軸に全学共通科目のみを対象として集計を行った。全学共通科目は1、2年生の履修者が多いことから、各学科の1、2年生の傾向がうかがえる結果となった。

1. 全学共通科目は幅広い知識を得る機会であり、学生自身の知的な世界を広げる第一歩となる。学生の関心に沿って自由に選択できる科目であるがゆえに、シラバスは重要な役割を果たす。内容だけでなく授業方法、星付けによってDPとの関連性等も明記される等、シラバス自体も改善が図られている。学生が自身の学びを体系立てて理解するうえでもシラバスの確認は重要であろう。「シラバス内容を知っている」学生が、2023年度後期の全学平均78.2%と比較すると、今回は81.4%と僅かでも増加したのは良い傾向といえる。
2. 授業での質問の有無については「質問したことがない」学生が87.6%と依然として高数値を示している。受講者の多い全学共通科目は学生が受け身になりがちで、教員との距離も生じやすいが、2023年度後期(90.3%)に比べると「質問したことがない」割合が減少しており、良い傾向と言える。
3. 授業難易度に関しては、「適切」あるいは「やや難しい」と捉えている学生が大半であっ

た。その一方で、「とても難しい」と捉えている層が多い学科と、逆に「とても易しい」「やや易しい」と捉えている層が一定数を占める学科があり、学科間の相違が顕著となった。これは昨年同様である。一つの学科内で「易しい」と「難しい」と捉える層の二極化の傾向がみられる学科もあり、各学科の補習授業や初年次教育、補充教育を通した丁寧な対応が、今まで以上に求められることになりそうだ。難易度については、今後も推移をみる必要があるだろう。

変動係数をみると全学平均は 22.42%であった。これは他の質問項目の平均値と比べても、「質問への対応」に次いで高い数値を示し、良い傾向とは言えない。学科間の格差も大きく、全学共通科目の授業の難易度の受け止め方は、主として1年生、2年生の学力のばらつきを反映していると考えられる。

4. 教員の意欲や熱意は 4 と 5 の合計は 92.95%と高い数値を示している。2023 年度後期の 92.66%と比較しても微増しており、20 学科中 17 学科の学生が、教員の熱意を高く評価している。多数の履修者を抱えている授業が多いなかで、教員による授業の工夫と授業改善の努力や熱意が学生に伝わっている結果であろう。

変動係数は他の質問項目よりも低い数値を示し、学科間の格差は生じているものの、大きい値ではない。学生が教員の熱意に対して好意的な見方をしていると言えるだろう。

5. 成長実感は、4「どちらかと言えばそう思う」と5「強くそう思う」の合計が 2023 年度後期から微増している。一部の学科では、1「まったくそう思わない」と2「どちらかと言えばそう思わない」が 0%と、全学共通科目を通じての学びを高く評価していると言える。変動係数も比較的ばらつきが少ない結果となった。

6. 総合満足度に関しては、今後の推移を注視する必要があるだろう。昨年度よりも満足度の低い層が増加しており、逆に満足度の高い層が減少している。微増減とはいえ、この傾向は無視できない。各評価を合計した数字だけをみると、まずまずの結果となるが、詳細をみると満足度が落ちてきていることがわかる。

授業の難易度についても二極化の傾向が見え、近年の学生の学力との関連性がないとはいえないだろう。教員の意欲や熱意は学生に伝わってはいても、授業についていけない層と物足りない層が一定数いることから、教員側の思いが空回りしているとも言える。2025 年度には新学習指導要領のもとで学んだ高校生が入学してくることから、全学共通科目にはその影響が出てくる可能性は否定できないだろう。教員側も学生の動向をみながら、さらなる工夫が必要となりそうだ。授業難易度、および総合満足度の変動係数が相対的に高いことから、今後どのように推移するのか注視していく必要があるだろう。

7. 「Q2：授業の難易度」、「Q4：FB丁寧」、「Q8：総合満足度」における変動係数は、他の質問項目に比べて相対的に高い数値が確認された。全学共通科目を履修する学生（主として1年生、2年生）の授業に対する姿勢や認識が大きくばらついていることを示している。

以上